渡辺和美副会長を偲ぶ

(財)日本ハンドボール協会　副会長　荒川清美



渡辺和美副会長が亡くなられた。日本ハンドボール界が切望していた「実業団」の本格的なスタートを試みられ、国際的な舞台でも存分の活躍された故人の生前の業績を、心から讃え、追悼の意を表するものです。

私が、渡辺副会長と初めてお目にかかったのは、もう30年も前のことでしょうか。それまで学生チームの全盛であった斯界に「大崎電気」を送りこまれ、新たな時代の開幕に、なみなみならぬ意欲を示された時でした。

そうした背景から、渡辺副会長は、実業団球界のリーダーとなられ、私が全日本学連の理事長をつとめた40年代には、全日本実連の理事長（初代）に就かれて、互いに、対岸から、その動きを認め合うことになりました。

オリンピック競技に定着することから、国際ハンドボール界の進出を企て、モントリオール・オリンピックを前に、二つの大きな思い出を刻んだのは忘れられません。

一つは、国際ハンドボール連盟が、新設の女子をヨーロッパ勢で固めかけたのに対し、当時、日本協会理事長の任にあった私は不満を抱き、なんとか日本の出場する策はないかと考えこんでいました。その結果、アジアから直接はムリとしても、ヨーロッパ以外からも一ないし二ケ国の出場枠をと思い、すでに国際連盟理事となっていた渡辺氏に相談、「三大陸代表」設定へとこぎつけたのです。

初の「三大陸代表」のアジア予選が、思いもかけぬ事態となったのは、それから1年後でした。

中東戦争のあおりでイスラエルと日本の対戦に安全を期するため、非公開で行うことになった。いわゆる「密室試合」事件です。

日本女子をなんとかモントリオールへと願う私の意思を、渡辺氏が国際連盟に掛け合いこのような異例の試合になったわけですが、開催までの苦労はなみたいではなく、当時の思い出をゆっくり話し合う機会もないまま、他界されたのはかえすがえすも残念なことであります。

渡辺副会長は財界人、実業人らしく、時に慎重、時に即断でコトに当たられていました。

スポーツ界は、どちらかといえば、伝統や習慣が先行しますので、私と意見がすれ違うこともなかったといえません。

アジア球界の確立というテーマでは、渡辺副会長も私も、同じ志向を抱いていましたが、その方法では、色合いがちがい、それが二人の間の〝対立〟として、多くの方に映ったのも、否めない事実です。

極東だけのアジア連盟ではなく、中東諸国にも呼びかけてのアジア連盟をとしていた私の願いは、クウェートなどによって、突然のように〝成立〟しましたが、渡辺副会長は、当初から、そこまでの拡がりを待たず、極東だけですぐにでもと構想されていたようです。

ご承知のように、アジア球界は大きく成長し、いま改めて、中東、極東の三地域別建てが論議されはじめようとしています。

渡辺副会長が元気を取り戻され、新たな視点で話し合うのを期待していましたが、それもかなわぬこととなりました。

渡辺副会長が夢とされた「実業団」全盛期は確固たる基盤のもとに花が咲き、国際進出にも、いくつかの芽生えがあります。

ご遺志を継いで、世界のなかでの日本ハンドボールの確立を遂げることをお誓いし、お別れのことばにさせていただきたいと思います。渡辺副会長、安らかにお眠り下さい。

第43回国民体育大会

2巡目を迎えた京都国体 各種目で大熱戦を展開

2巡回目に入った国民体育大会、第43回京都国体は、10月16日から20日までの5日間、京都府八幡市民体育館など5会場で熱戦を繰り広げた。

今大会から新たに成年男子2部が設けられ、男女5種目で栄冠を争われたが、成年男子1部は埼玉（大崎電気）、成年女子は茨城（日本ビクター）、成年男子2部は京都（京都クラブ）、少年男子は大阪（選抜）少年女子は東京（東京都少年女子）がそれぞれ優勝を飾った。

成年男子1部

1回戦

沖縄（浦添ク）37（19－10 18－8）18 香川（讃岐ク）

〔戦評〕開始2分、速攻で先取した沖縄は、粘りのあるディフェンスと東江を中心とした攻撃で着実に加点する。一方香川は、攻守ともにミスが多く、特に攻撃のリズムが取れないまま前半を終了する。

後半に入ってもリズムに乗れない香川に対し沖縄は速攻と巧みなパスワークで得点し、良いスタートで第一戦を勝った。

〔香川〕	得
GK 大谷	0
宮地	0
FP 稲沢	2
久保	0
谷口郁	1
渡辺	2
谷口友	1
亀井	3
泉谷	1
高畠	7
宮治	0
原	1
PT (1)	18

（審・岩崎・村田）

得	〔沖縄〕
0	GK 高良
0	比嘉薫
4	FP 黒島
4	比嘉勉
0	宮里
4	新垣
2	宮城
2	上原
4	内原
2	新里
8	喜舎場
7	東江
37	PT (1)

大阪（大阪ク）37（18－13 19－13）26 北海道（北海道選抜）

〔戦評〕前半20分頃まで三浦のロングシュートなどで11－11と健闘した北海道であったが、その後地力に勝る大阪が辻本の速攻などで6点を連取し、ゲームの主導権を握った。後半も大阪ペースは崩れず、37－26で大阪が勝利を得た。

〔北海道〕	得
GK 柿沼	0
奥村	0
FP 道下	1
岩下	0
米内山	1
山崎	0
伊藤	3
石橋	4
三浦	10
近嵐	1
佐藤直	3
佐藤浩	3
PT (1)	26

（審・野中・高橋）

得	〔大阪〕
0	GK 信貴
0	太田
0	FP 勝本
0	源野
3	成願
2	大西
1	西村
10	杉森
3	杣山
5	岩本
12	辻本
1	杉尾
37	PT (8)

2回戦

広島（湧永製薬）33（16－10 17－9）19 沖縄

〔戦評〕広島はポストなどをうまく使い、着実に加点していくが、一方の沖縄も喜舎場、東江を中心にスピードあるプレーで食いついていくが、ディフェンス力の差があり、追撃はならなかった。

〔沖縄〕	得
GK 高良	0
比嘉薫	0
FP 黒島	3
比嘉勉	2
宮里	0
新垣	0
宮城	0
上原	1
内原	0
新里	0
喜舎場	8
東江	5
PT (2)	19

（審・岩崎・村田）

得	〔広島〕
0	GK 多田
0	井藤
2	FP 酒巻
4	河原
12	玉村
2	堀田
3	栖原
4	中川
1	長沢
4	荷川取
0	鎌塚
1	奥田
33	PT (4)

京都（京都ク）37（20－10 17－8）18 岩手（白堊ク）

〔戦評〕前半15分過ぎまで一進一退の状態から京都の前に出るディフェンスが決まり出し、速攻コンビプレーが決まり出した。岩手も高井のロングで追うが、京都のディフェンスに屈した。

〔岩手〕	得
GK 佐藤	0
佐々木	0
FP 早坂悟	0
高井	6
岡市	1
菊池	0
阿部行	1
阿部伸	2
鈴木淳	4
鈴木雅	2
早坂将	0
柏館	2
PT (1)	18

（審・奥田・丸谷）

得	〔京都〕
0	GK 小幡
0	馬場
2	FP 松本
4	三幸
10	桐木
1	森口
2	三本
2	今村
2	百合野
4	中間
8	吉川
2	山本
37	PT (4)

埼玉（大崎電気）41（28－4 23－8）12 富山（全富山）

〔戦評〕地力に勝る埼玉が、スピーディな攻撃で着実に加点し、前半を23－8と大きくリード。後半に入っても、高い守りと速いディフェンスのつめで富山に十分な攻撃をさせず、速攻につなぎ得点した。スコアーは大差になったが、富山は終了の笛まで本当によく健闘した。

〔富山〕	得
GK 竹内	0
桜打	0
FP 秀永	1
指崎	0
宮窪	0
赤塚	0
松田	2
東瀬	0
森	3
西田	0
上田	5
堀川	1
PT (1)	12

（審・岩崎・村田）

得	〔埼玉〕
0	GK 矢内
0	渡辺
6	FP 松岡
1	大和田
2	武田
10	首藤
1	中田
6	山本
3	越迫
2	菅田
3	相馬
7	宮下
41	PT (2)

三重（本田技研鈴鹿）33（16－13 17－4）17 大阪

〔戦評〕大阪は、三重の厚いディフェンスに攻撃の

糸口をつかめない。一方三重は、ディフェンスの早いつぶしからの速攻で着実に加点し、17－4で前半を終了する。後半も三重はペースを崩さず33－17で完勝した。

得	〔三重〕		〔大阪〕	得
0	大畑	GK	信貴	0
0	橋本	GK	太田	0
4	真砂	FP	勝本	0
9	山村	FP	源野	1
2	藤井	FP	成願	1
1	立木	FP	大西	4
1	尾上	FP	西村	0
2	内藤	FP	杉森	3
2	粟屋	FP	杣山	0
4	山本	FP	岩本	2
2	田口	FP	辻本	6
6	平子	FP	杉尾	0
33	(7)	PT（審・奥田・丸谷）	(7)	17

準決勝

広島 34（17－6 / 17－9）15 京都

〔戦評〕京都がベテラン松本のシュートで先制するが、広島は楢原のポストシュートなどですぐに逆転する。前半10分過ぎまで京都も善戦するが、広島の固いディフェンスをなかなか突破できず、逆に速攻及びロングシュート、サイドシュートと左右高低のシュートで広島が着々と加点し、リードを広げる。後半に入っても、スピード、テクニックとも広島が良く、京都も力一杯シュートへとつなぎ、善戦したが、惜しくも敗退した。

得	〔広島〕		〔京都〕	得
0	多田	GK	小幡	0
0	井藤	GK	馬場	0
0	酒巻	FP	松本	1
5	河原	FP	三幸	1
7	玉村	FP	桐木	6
5	堀田	FP	森口	0
6	楢原	FP	三本	1
2	中川	FP	今村	1
3	長沢	FP	百合野	0
1	荷川取	FP	中間	5
2	鎌塚	FP	吉川	0
3	奥田	FP	山本	0
34	(1)	PT（審・吉田・太田）	(3)	15

成年男子１部は広島が制す

埼玉 25（15－9 / 10－12）21 三重

〔戦評〕日本リーグの強豪同士の対戦となり、顔ぶれもソウル・オリンピックのメンバーがずらりと名をつらね、迫力あるものとなった。ゲームは一進一退の好ゲームとなったが、埼玉が三重のシュートミスなどをうまくつなぎ前半で15—9と6点差をつけて折り返した。後半に入り、三重はGK橋本の堅い守りから再三追いつくチャンスがあったが、前半の劣勢を逆転するまでには至らず、結局4点差で埼玉が逃げ切った。

得	〔埼玉〕		〔三重〕	得
0	矢内	GK	大畑	0
0	渡辺	GK	橋本	0
5	松岡	FP	真砂	7
1	大和田	FP	山村	4
4	武田	FP	藤井	1
4	首藤	FP	立木	3
0	中田	FP	尾上	0
5	山本	FP	内藤	1
0	越迫	FP	粟屋	1
3	菅田	FP	山本	0
0	相馬	FP	田口	4
3	宮下	FP	平子	0
25	(4)	PT（審・島崎・井上）	(1)	21

3位決定戦

三重 37（22－7 / 15－12）19 京都

〔戦評〕京都は開始1分、今村のロングで幸先良いスタートを切ったが、三重は日本リーグ1部の実力を見せつけ、22—7の大差で前半終了。

後半は京都も粘りを見せ、三重に食いつき最後まで勝負をあきらめずよく頑張った。

得	〔三重〕		〔京都〕	得
0	大畑	GK	小幡	0
0	橋本	GK	馬場	0
1	真砂	FP	松本	2
9	山村	FP	三幸	1
3	藤井	FP	桐木	3
4	立木	FP	森口	0
2	尾上	FP	三本	0
5	内藤	FP	今村	4
8	粟屋	FP	百合野	0
1	山本	FP	中間	4
2	田口	FP	吉川	3
2	平子	FP	山本	2
37	(2)	PT（審・奥田・丸谷）	(3)	19

決勝

埼玉 31（14－12 / 17－11）23 広島

〔戦評〕ポストシュートで1点ずつ取り合った両チームは、セット主体の攻撃で展開し、埼玉は宮下のロング、松岡のポストやサイドシュートで、一方広島は玉村、荷川取のミドルシュートで得点を重ねるが、広島に退場者が続出し、残り5分には8—12と4点差をつけられて苦しい戦いとなった。

後半に入っても1点ずつを重ね合い、点差は縮まらない。残り5分からは埼玉のペースになり、広島を突き放した。

得	〔埼玉〕		〔広島〕	得
0	矢内	GK	多田	0
0	渡辺	GK	井藤	0
7	松岡	FP	酒巻	0
2	大和田	FP	河原	2
3	武田	FP	玉村	7
4	首藤	FP	堀田	3
0	中田	FP	楢原	5
7	山本	FP	中川	0
0	越迫	FP	長沢	0
0	菅田	FP	荷川取	2
0	相馬	FP	鎌塚	0
8	宮下	FP	奥田	4
31	(4)	PT（審・岡本・清水）	(2)	23

成年女子

1回戦

愛知（プラザー工業）28（17－4 / 11－6）10 宮城（全宮城）

〔戦評〕前半、愛知は速攻、ロング、ポストなど多様な攻めとディフェンス力の差で17—14と大量リードで折り返した。後半、10分間は宮城はカットやポストプレーで愛知を押し気味で試合が運ばれた。しかし、愛知も14分過ぎより速攻を中心に着実に得点を重ねていった。総合的に速攻とディフェンス力の差により、愛知が大差で逃げ切った。

得	〔愛知〕		〔宮城〕	得
0	大藪	GK	鈴木環	0
0	岡本	GK	森	0
3	荒木	FP	鈴木朋	1
6	末永	FP	鈴木美	3
0	原田	FP	今野	1
7	坂倉	FP	大島	0
3	道上	FP	神尾	0
0	松尾	FP	森屋	0
0	進藤	FP	中井	0
1	香井	FP	菅井	2
8	野田	FP	田島	3
0	甲斐	FP	高橋	0
28	(4)	PT（審・福井・田中）	(0)	10

香川 15 （9—5 6—8） 13 **福岡**
（オール香川）　（全福岡）

〔戦評〕前半10分過ぎまでどちらも固さが見られ点の動きが少なかった。しかし、前半20分頃には香川が相手のミスからの速攻や河野のカットインなどで差をつけ9—5とする。後半、福岡も守りを固め尾木の速攻などで15分には10—10となる。しかし、20分過ぎに福岡に守りのミスが出て藪田が退場、ここで再び河野がカットインを決めて12—11。その後、GK沢辺の好守などで香川が福岡を押し切った。

	〔福岡〕	得
GK	上野	0
GK	沢辺	0
FP	今村	0
FP	松田	9
FP	藪田	1
FP	妹川	1
FP	田中	0
FP	尾木	1
FP	田口	0
FP	橋本	0
FP	長澤	1
PT		(5)
		13

	〔香川〕	得
GK	大西	0
FP	谷本	0
FP	笠井	4
FP	末佐	2
FP	河野	4
FP	橋	2
FP	福崎	1
FP	松川	0
FP	木村	1
FP	松浦	1
FP	藤澤	0
PT		(4)
		15

（審・丹田 崎野）

広島 22 （10—9 12—8） 17 **滋賀**
（広島ク）　（滋賀選抜）

〔戦評〕前半は両チームともにミスが目立ち、激しい攻防戦となった。後半に入って、広島はGKの好守と中田のペナルティーなどで徐々にペースに乗り、滋賀をふり切った。

後半途中で2名の退場者を出した滋賀のディフェンスが悔やまれる。

	〔滋賀〕	得
GK	小西	0
GK	北川	0
FP	今井	3
FP	貫名	1
FP	大橋	3
FP	中西	0
FP	又川	5
FP	瀧	0
FP	森	1
FP	木村	2
FP	石田	1
FP	鋒山	1
PT		(0)
		17

	〔広島〕	得
GK	永岡	0
GK	山本	0
FP	本西	0
FP	水木	1
FP	山田	0
FP	猫本	3
FP	中田	10
FP	藤岡	0
FP	高松	0
FP	長谷部	5
FP	森	0
FP	楠木	3
PT		(7)
		22

（審・福井 田中）

山口 24 （16—5 8—7） 12 **北海道**
（徳山ク）　（北海道選抜）

〔戦評〕前半、山口の速攻と北海道の遅攻で展開するが、両者ともシュートミスが多く、最終的に山口が加点した。

後半に入っても、前半同様山口の速攻でペースを守った。24—12で山口が勝つ。

	〔北海道〕	得
GK	小松	0
GK	久保田	0
FP	村元	0
FP	大原	0
FP	山本	5
FP	鎌田	0
FP	海道	2
FP	平田	2
FP	長谷川	0
FP	相馬	0
FP	伝法谷	3
FP	藤本	0
PT		(3)
		12

	〔山口〕	得
GK	野村	0
GK	中嶋直	0
FP	三崎	5
FP	石田	5
FP	中嶋華	2
FP	中村	0
FP	飯田	4
FP	森本	3
FP	上村	0
FP	国沢	0
FP	堀田	1
FP	福田	4
PT		(1)
		24

（審・吉田 杉本）

福島 20 （11—6 9—7） 13 **愛媛**
（ムネカタ）　（愛媛選抜）

〔戦評〕開始直後両チームとも固さが目立ち、ミスが多く得点につながらなかったが、学生中心の愛媛はフレッシュなプレーが目についた。一方福島は、前半の中ばから後半にかけ、スピードとサイドシュート、ポスト桜井とのコンビネーションで前半を11—6で折り返した。後半に入り、愛媛は帰陣を早くし、福島の攻撃を防ぎ、逆速攻で加点する。中盤以降両チームともシュートミスが目立ったが、福島は速攻から加点し、粘る愛媛を突き放した。

	〔愛媛〕	得
GK	芝	0
FP	東	0
FP	武智	2
FP	井手千	5
FP	新田	1
FP	堀田	3
FP	井手瑞	1
FP	渡部	0
FP	徳井	0
FP	田中	1
FP	秋本	0
PT		(4)
		13

	〔福島〕	得
GK	遠藤	0
GK	我妻	0
FP	伊藤	2
FP	皆川	1
FP	川名	0
FP	太田	5
FP	桜井	5
FP	高橋	5
FP	上遠野	2
FP	梅津	0
PT		(1)
		20

（審・田中 尾高）

石川 19 （8—6 11—5） 11 **岩手**
（北国銀行）　（白梅三葵会）

〔戦評〕前半、両チームともよく走るが、シュートミスにより低得点のまま展開する。石川が押し気味に進めるが、岩手GKの好守にあい苦戦する。22分にやっと5—5の同点にし、上田、北川の得点により8—6で折り返した。後半の石川は北川が着々と加点し、10分には13—8と大勢は決した。一方岩手も堀米を中心に反撃するが走力が前半ほどなく19—11で敗戦した。

	〔岩手〕	得
GK	西川	0
GK	橋本	0
FP	堀米	6
FP	工藤	0
FP	大志田	1
FP	川村ゆ	0
FP	川村み	0
FP	井上	0
FP	藤島	0
FP	外館	3
FP	鈴木	0
FP	鎌田	1
PT		(3)
		11

	〔石川〕	得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	上田	2
FP	林	2
FP	丹後	2
FP	松田	0
FP	北川真	8
FP	川崎	2
FP	塙	1
FP	北川静	2
FP	森	0
FP	鈴木	0
PT		(4)
		19

（審・吉田 杉本）

2回戦

埼玉 18 （8—9 10—8） 17 **愛知**
（大崎電気）

〔戦評〕愛知の先取点で始まり、10分までは愛知のペース。しかしその後埼玉も地力を発揮し、接戦になる。前半残り20秒で愛知・末永のミドルシュートが決まり、愛知の1点リードで終了。後半も開始早々愛知はペナルティースローで得点し、そのまま波に乗るかと思われたが、埼玉の高いディフェンスに阻まれ10分間無得点。その間埼玉が5連続得点し、そのままいくようであったが、愛知も粘る。両チームのGKもよくとり、見ていて面白い試合であったが、結局1点差で埼玉が逃げ切った。

	〔愛知〕	得
GK	大藪	0
GK	岡本	0
FP	荒木	4
FP	末永	5
FP	原田	0
FP	坂倉	3
FP	道上	0
FP	松尾	0
FP	進藤	0
FP	香井	0
FP	野田	5
FP	甲斐	0
PT		(2)
		17

	〔埼玉〕	得
GK	宗片	0
GK	佐々木	0
FP	森田	0
FP	松尾	7
FP	須永	0
FP	前川	3
FP	梅原	3
FP	江口	1
FP	野口	3
FP	鈴木	1
FP	香川	0
FP	福井	0
PT		(3)
		18

（審・茨木 堀田）

京都 39 （19—4 20—7） 11 **新潟**
（京都ク）　（新潟江南OG）

〔戦評〕新潟が先制するが、京都も藤田を中心に速攻と巧みなパスワークで着実に得点し、19—14で前半を終了する。

後半に入っても、新潟の無理なシュートを速攻に結びつけ大差で地元の応援に応える。

	〔新潟〕	得
GK	高橋	0
GK	堀美	0
FP	伊藤	1
FP	古泉	1
FP	藤塚	5
FP	中村	2
FP	加藤	0
FP	五十嵐	0
FP	阿部	1
FP	坂井	0
FP	清水	0
FP	川口	1
PT		(0)
		11

	〔京都〕	得
GK	畑添	0
GK	山本	0
FP	矢野	3
FP	山戸	0
FP	池ノ上	3
FP	藤田	7
FP	渡辺	1
FP	谷坂	9
FP	大野	8
FP	中尾	5
FP	小橋	3
FP	山本	0
PT		(7)
		39

（審・吉田 杉本）

栃木 28 （16—5 12—7） 12 **香川**
（日立栃木）

〔戦評〕栃木・山岸のステップシュートでスタート。5分間に相手のミスに乗じて4点を連取。香川も笠井、木村の頑張りで善戦するがミスが多く、ことごとく栃木に

	〔香川〕	得
GK	鎌田	0
GK	大西	0
FP	谷本	1
FP	笠井	7
FP	末佐	1
FP	河野	0
FP	橋	1
FP	福崎	0
FP	松川	0
FP	木村	2
FP	松浦	0
FP	藤澤	0
PT		(2)
		12

	〔栃木〕	得
GK	岡本	0
GK	梅津	0
FP	菅原	0
FP	神永	2
FP	飯塚	3
FP	新井	1
FP	山岸	4
FP	尾苗	4
FP	中村	5
FP	石毛	1
FP	岡田	5
FP	吉鶴	3
PT		(3)
		28

（審・中本 渡辺）

得点された。香川の1点目は7分過ぎ、笠井のロングシュートであった。

後半、栃木は前半の大量リードのためか集中力にかけ、5分の間に4点連取された。しかし、9分に香川・笠井の退場からペースをもどし28—12で栃木が勝った。

山梨 28〔14—9 14—4〕13 広島
（シャトレーゼ）

〔戦評〕立ち上がりより山梨は速攻、ミドルシュートは決まり、10分過ぎには8—2とリードするも広島は全員がよく走り、コンビプレーからポストシュート、中田のミドルシュートで8—8と追いついたが、残り5分間に山梨の速攻を許し、9—14で前半終了。

後半になると、広島は攻守とも山梨の動きに追いつけず、速攻、ミドルシュートで加点を許し、28—13で試合終了。

得	〔広島〕		〔山梨〕	得
0	永岡	GK	丸山	0
0	山本		工藤	0
1	本西	FP	井出	0
0	水木		嶋崎	2
1	山田		海道	4
2	猫本		松沢	7
4	中田		黒沼	6
0	藤岡		小林	1
0	高松		小野寺	2
3	長谷		江原	2
0	森		生方	1
2	楠本		山岸	3
13	(1)	PT	(2)	28

（審・野中 高橋）

熊本 31〔20—2 11—8〕10 山口
（若[illegible]）

〔戦評〕終始熊本ペースで展開する。速攻、カットワン、ミドル、サイドなど多彩な攻撃により加点する。これに対して山口は相手ディフェンスの速いプレスを崩し切れず、得点のチャンスがあっても相手GKに巧守されたり、ミスにより得点することができなかった。

後半に入り山口の動きも良くなったが、熊本を浮き足たたせるまでには至らなかった。

得	〔山口〕		〔熊本〕	得
0	野村	GK	岡本	0
0	中嶋直		川島	0
2	三崎	FP	山口	0
3	石田		山内	4
1	中嶋華		江口	1
1	中村		田中	2
2	飯田		横田	0
1	森本		野嶋	2
0	上村		橋本	4
0	国沢		武津	5
0	堀田		中山	5
0	福田		比嘉	8
10	(1)	PT	(2)	31

（審・茨木 堀田）

茨城 29〔16—8 13—8〕16 福島
（日本ビクター）

〔戦評〕立ち上がり固さが見られたが、5分過ぎから茨城はポスト、ロング、速攻と多彩な攻めで着々加点。福島も速い動きで応戦するが、ミスが目立ち、茨城の早い帰陣、固いディフェンスを突破できず16—8で前半を終了した。

後半に入っても、両チームとも早い動きで攻防を繰り広げたが、福島は茨城の高いディフェンスを攻め切れず、力で押し切られた。

得	〔福島〕		〔茨城〕	得
0	遠藤	GK	小口	0
0	我妻		高橋	0
0	伊藤	FP	武藤	5
4	皆川		長田	5
0	川名		枝川	3
4	太田		下條	0
2	桜井		平松	1
2	高橋		根本	5
2	上遠野		太田	5
2	梅津		工藤	1
			中村	3
			山之内	1
16	(2)	PT	(1)	29

（審・吉田 杉本）

三重 35〔17—5 18—5〕10 大分
（ジャスコ）（大分選抜）

〔戦評〕大分は矢田のステップシュートで先取点をあげるが、三重は4分過ぎより武田の速攻で連続得点をあげ、リズムに乗る。その後も速攻で加点し、三重が17—5で前半を折り返した。

後半、大分は全員がよく動きセット攻撃を繰り返すが、三重の堅いディフェンスに阻まれ得点することができず、三重の速攻に連続得点され終了した。

得	〔大分〕		〔三重〕	得
0	都	GK	小深田	0
0	下郡		吉田	0
0	深田	FP	服部	0
0	杉山		佐々木	5
0	福岡		石田	2
4	近藤		近藤	3
0	太田		池田美	0
3	穴見		渡辺	7
0	三代		常石	0
1	矢田		川井	9
2	紀野		武田	5
0	吉尾		池田久	4
10	(2)	PT	(2)	35

（審・中本・渡辺）

大阪 26〔11—11 15—7〕18 石川
（大和銀行）

〔戦評〕お互いにスピーディな動きでゲームが展開され、大阪は石川のディフェンスとGKの好守に加点できず、逆に石川もGKにたびたび好守され、これも加点できず、前半を11—11で折り返した。

後半に入ると、2分、石川は北川の退場から攻守が乱れ、その間に大阪は速攻、PTで2点を入れた。しかし、石川はその後もリズムが戻らず、大阪の速攻を許し、終盤は大阪のペースに終始した。

得	〔石川〕		〔大阪〕	得
0	木戸	GK	増見	0
0	岩井		坂口	0
0	上田	FP	丸田	3
2	林		赤瀬	1
3	丹後		上村	6
3	松田		小池	8
7	北川真		藤本	2
3	川崎		渡辺	1
0	塙		袰川	5
0	北川静		木瀬	0
0	森		松田	0
0	鈴木			
18	(4)	PT	(4)	26

（審・野中 高橋）

3回戦

京都 20〔13—8 7—9〕17 埼玉

〔戦評〕地元京都は声援を背によく脚を動かし、ディフェンス、オフェンスとも埼玉を上回り、前半20分まで8—1と大きくリードを奪う。20分過ぎからディフェンス

得	〔埼玉〕		〔京都〕	得
0	宗片	GK	畑添	0
0	佐々木		山本	0
0	森田	FP	矢野	0
3	松尾		山戸	0
0	須永		池上	3
5	前川		藤田	7
4	梅原		渡辺	0
1	江口		谷坂	0
1	野田		大野	3
3	鈴木		中尾	2
0	香川		小橋	5
0	福井		山本	0
17	(2)	PT	(5)	20

（審・吉田 杉本）

集中力がやや低下したところを埼玉もサイドシュート、カットインなどで追い上げるが、京都も踏んばり、5点差で折り返す。後半も京都よく動き、自分たちのペースで試合を進めた。

大阪 21 〔11—12、10—8〕 20 三重

〔戦評〕ロングの大阪、速攻の三重の試合は1点を争う白熱したゲームとなった。両チームともに再三ノーマークのチャンスをGKの好守に阻止され、思うように得点をあげられない。しかし、セットにおいて丸田、巽川という計算できるシューターをもつ大阪が残り2分、丸田のシュートで三重を突き放し、21—20で勝利をおさめた。

〔三重〕		得
GK	小深田	0
GK	吉田	0
FP	服部	3
FP	佐々木	2
FP	石田	4
FP	近藤	3
FP	池田美	0
FP	渡辺	1
FP	常石	0
FP	川井	0
FP	武田	0
FP	池田久	7
PT	(4)	20

〔大阪〕		得
GK	増見	0
GK	坂口	0
FP	丸田	8
FP	赤瀬	1
FP	上村	1
FP	小池	5
FP	藤本	1
FP	渡辺	0
FP	巽川	5
FP	木瀬	0
FP	松田	0
PT	(5)	21

〔審・野中 高橋〕

茨城 23 〔10—10、13—11〕 21 熊本

〔戦評〕立ち上がり、茨城はポスト攻撃が成功し、着実に加点した。逆に熊本に乱れが目立ち、茨城はGKの好守もあり18分には9—4とリードする。熊本も次第にコンビが合い始め、13—11と追い上げて前半を終了。

後半に入ると、熊本は積極的にシュートを放つが、茨城のGKの好守にあい得点ができず、その間に茨城は確実にシュートを決め、リードを広げる。熊本も終盤猛追するが一歩及ばず、22—20で茨城が逃げ切った。

〔熊本〕		得
GK	岡本	0
GK	川島	0
FP	山口	0
FP	山内	3
FP	江口	1
FP	田中	2
FP	横田	1
FP	野嶋	3
FP	橋本	1
FP	武津	0
FP	中山	1
FP	比嘉	9
PT	(6)	21

〔茨城〕		得
GK	小口	0
GK	高橋	0
FP	武藤	7
FP	長田	6
FP	枝川	3
FP	下條	3
FP	平松	0
FP	根本	2
FP	太田	2
FP	工藤	0
FP	中村	0
FP	山之内	0
PT	(4)	23

〔審・中本 渡辺〕

山梨 29 〔18—12、11—7〕 19 栃木

〔戦評〕両チームとも動きの良い試合となる。その中で山梨は攻守に栃木を上回り、着々と得点を重ねる。特に、山梨はディフェンスに優れ、リズムがある攻撃で勝利をおさめた。

〔栃木〕		得
GK	岡本	0
GK	梅津	0
FP	菅原	0
FP	神永	0
FP	飯塚	1
FP	新井	5
FP	山岸	5
FP	尾苗	5
FP	中村	1
FP	石毛	0
FP	岡田	2
FP	吉鶴	0
PT	(2)	19

〔山梨〕		得
GK	丸山	0
GK	工藤	0
FP	井出	2
FP	嶋崎	3
FP	海道	2
FP	松沢	4
FP	黒沼	1
FP	小林	0
FP	小野寺	4
FP	江原	1
FP	生方	7
FP	山岸	5
PT	(9)	29

〔審・岡本 清水〕

準決勝

山梨 24 〔4—0、2—0、9—8、9—10〕 18 京都

〔戦評〕すべり出しは山梨にいつもの調子が見られず、京都は大勢の応援にのびのびとプレーする。山梨は海道を中心にロングシュート、フリースローと得点を重ね、一方京都は池上のボール回しから谷坂の速攻、サイドシュートと守ってはGKの好守で前半は一進一退の内容。

後半は、京都は藤田を中心にカットイン、ロングシュートと得点を重ね、山梨はやはり海道を中心に攻める。両GKの好守が試合内容を白熱させた。延長戦に入ると山梨は海道の4点連取で京都を突き放した。

〔京都〕		得
GK	畑添	0
GK	山本	0
FP	矢野	0
FP	山戸	0
FP	池上	2
FP	藤田	7
FP	渡辺	0
FP	谷坂	4
FP	大野	1
FP	中尾	2
FP	小橋	2
FP	山本	0
PT	(1)	18

〔山梨〕		得
GK	丸山	0
GK	工藤	0
FP	井出	0
FP	嶋崎	1
FP	海道	14
FP	松沢	5
FP	黒沼	2
FP	小林	0
FP	小野寺	0
FP	江原	0
FP	生方	2
FP	山岸	0
PT	(6)	24

〔審・吉田 杉本〕

茨城 33 〔20—14、13—8〕 22 大阪

〔戦評〕立ち上がり両チームとも動きが悪かったが、10分過ぎより茨城は長田を中心とした速いパスワークにより徐々に動きが良くなり、確実に加点した。それに対し大阪は、丸田を中心にミドル、ポストと攻撃するが、ディフェンスとGKの好守によりなかなか得点



成年女子は茨城が激戦を勝ち抜く

に結びつかなかった。
後半に入っても大阪は本来の力を出し切れず、茨城の余裕ある攻撃に完敗した。

得	〔茨城〕		〔大阪〕	得
0	小口	GK	増見	0
0	高橋	GK	坂口	0
8	武藤	FP	丸田	4
9	長田	FP	赤瀬	3
4	枝川	FP	上村	4
3	下條	FP	小池	2
0	平松	FP	藤本	0
4	根本	FP	渡辺	3
2	太田	FP	甕川	6
0	工藤	FP	木瀬	0
2	中村	FP	松田	0
1	山之内	FP		
33	(6)	PT	(2)	22

〔審・茨木 堀田〕

3位決定戦

京都 23（12−10, 11−10）20 大阪

〔戦評〕立ち上がりから両チームとも足をよく使った攻撃で1点を争う好ゲームであった。勢いに乗る京都に軍配が上がった。



成年女子優勝の茨城のエース武藤

得	〔京都〕		〔大阪〕	得
0	畑添	GK	増見	0
0	山本	GK	坂口	0
1	矢野	FP	丸田	6
0	山戸	FP	赤瀬	4
4	池上	FP	上村	3
9	藤田	FP	小池	3
0	渡辺	FP	藤本	2
3	谷坂	FP	渡辺	0
0	大野	FP	甕川	2
1	中尾	FP	木瀬	0
5	小橋	FP	松田	0
0	山本	FP		
23	(6)	PT	(3)	20

〔審・北山 大原〕

決勝

茨城 24（13−9, 5−9, 2−1, 4−2）21 山梨

〔戦評〕山梨は江原のカットイン、一方茨城は長田のペナルティースローなどで両チームとも互角の立ち上がりであった。しかし、前半20分を過ぎた頃からGK山口の好守からディフェンスを固めた茨城がスピードに乗った攻撃を展開、13−9で折り返す。

後半、山梨もコート両サイドを有効に使った攻めで対抗、残り6分で17−18、15秒で海道のペナルティースローが決まり、延長へともつれ込んだ。延長に入ると、茨城は山梨の守りの甘さをついて次々とシュートを決め、小野寺、海道などで粘る山梨をふり切った。

得	〔茨城〕		〔山梨〕	得
0	小口	GK	丸山	0
0	高橋	GK	工藤	0
4	武藤	FP	井出	0
8	長田	FP	嶋崎	0
3	枝川	FP	海道	9
2	下條	FP	松沢	3
0	平松	FP	黒沼	3
4	根本	FP	小林	0
3	太田	FP	小野寺	1
0	工藤	FP	江原	1
0	中村	FP	生方	4
0	山之内	FP	山岸	0
24	(6)	PT	(3)	21

〔審・島崎 井上〕

成年男子2部

1回戦

山口（山口県教員団）24（12−12, 12−8）20 埼玉（埼玉教員ク）

〔戦評〕先取点は山口。埼玉は5分過ぎから得点を重ね。カットインから速攻、両サイドから加点。一方山口は着実に得点をあげ、12−12で前半を終了。後半は、山口が確実に得点を重ねて埼玉を10分間ノーゴールに押さえる。埼玉は攻撃もディフェンス前でミスが多く、逆に山口の速攻を許した。

山口の勝因は、終始同じペースで攻めたこと。埼玉は、前・後半の攻撃にムラがあり過ぎた。

得	〔山口〕		〔埼玉〕	得
0	吉村	GK	大崎	0
0	古谷	GK	牧田	0
0	飯島	FP	田中	5
7	橋本	FP	岩本	3
4	吉兼	FP	綿引	6
6	角	FP	池田	2
0	岡村	FP	山中	0
5	原井	FP	野平	1
2	中村	FP	伊藤	0
0	和田	FP	吉田	0
0	白川	FP	稲村	0
0	片山	FP	谷井	0
24	(4)	PT	(2)	20

〔審・福井 田中〕

富山（全富山）30（16−13, 14−11）24 北海道（北海道選抜）

〔戦評〕前半の滑り出し富山が北海道のミスに乗じた速攻とつなぎで先手をとったが、中盤から後半にかけ徐々にペースを取り戻した北海道が次第に追い上げ、前半を3点差で終了。後半に入っても前半の3点差が縮まらず、逆に富山が引き離して勝利をつかんだ。

得	〔富山〕		〔北海道〕	得
0	水谷	GK	千葉	0
0	藤森	GK	木下	0
1	越前	FP	遠藤	8
3	中浦	FP	堤	2
1	沢井	FP	清水	3
4	中山	FP	金子	4
0	栗山	FP	斉木	2
3	小嶋	FP	柏崎	0
3	山崎	FP	赤川	0
8	金原	FP	石谷	0
7	矢田	FP	岡	0
		FP	大津	5
30	(3)	PT	(2)	24

〔審・島崎 井上〕

大分（大分県選抜）29（12−11, 17−11）22 宮城（東北学院大OB会）

〔戦評〕前半、一進一退のゲーム展開で大分が20分過ぎまで2点をリードしていたが、その後宮城もペナルティースローをきっかけに追い上げる。後半、両チームともよく走るが、特に大分がパス及びシュートをうまくカットし、速攻へと結びつけて着々と加点し、勝利を得た。

得	〔大分〕		〔宮城〕	得
0	大久保	GK	佐藤浩	0
0	財満	GK	秋葉	0
5	源内	FP	日下	4
0	足立	FP	佐藤誠	5
2	麻生	FP	菅井	1
7	石本	FP	小西	6
6	二宮	FP	弓場	2
1	南	FP	千葉	1
0	渡辺	FP	加藤	2
6	朝来	FP	小野寺	0
2	山地	FP	荒川	1
0	甲斐	FP	今野	0
29	(2)	PT	(1)	22

〔審・福井 田中〕

三重（本田技研爽風会）27（12−12, 15−13）25 奈良（わかくさ）

〔戦評〕前半、奈良がGK小野の好守からスピードに乗った攻めを展開すれば、三重も粘り強くボールをつないで攻撃し、一進一退のゲームが続く。後半、三重は守りの荒さから退場者を出し、ペースを崩して奈良にリードを奪われるが残り15分で同点に追いついた。その後奈良は畑のミドル、三重は

山下の速攻で加点し、1点を争うゲームとなる。結局、三重がノーマークシュートの確実性で勝利を握った。

〔奈良〕	得		〔三重〕	得
小野	0	GK	三宅	0
		GK	高木	0
畑	8	FP	平山	7
小林稔	8	FP	香西	1
矢野	0	FP	弥吉	2
小林弘	1	FP	関根	1
上田	0	FP	平松	6
金丸	5	FP	東	5
村田	1	FP	松下	0
菅沼	0	FP	山下	5
谷	1	FP		
田中	1	FP		
25	(1)	PT	(0)	27

（審・島崎・井上）

岩　手（花巻ク）19（9―9、10―8）17 愛　知（愛知選抜）

〔戦評〕前半立ち上がり10分間、双方とも攻めあぐみ、共に得点できなかったが、10分過ぎより愛知がセットプレーでリードしていった。しかし、岩手も速攻、ペナルティーなどで追いつき、9―9の同点で折り返した。後半も共に譲らず一進一退を続けたが、残り10分で勝負が決まった。愛知・大原の健闘が光っていた。

〔愛知〕	得		〔岩手〕	得
柳川清	0	GK	佐藤	0
本地	0	GK	多田	0
柳川実	1	FP	谷川	4
藤中	3	FP	中島	6
加藤	1	FP	及川	2
下山	0	FP	大沢	0
松原	0	FP	山口	0
大原	8	FP	森田	0
更谷	3	FP	谷藤	1
清崎	0	FP	小田中	4
黒田	1	FP	藤原	2
鈴木	0	FP	高橋	0
17	(3)	PT	(3)	19

（審・吉田・太田）

京　都（京都ク）32（20―2、12―4）6 香　川（讃岐ク）

〔戦評〕地元京都は若い教員チーム、対する香川は大学生を含めた選抜チーム。前半スタートから京都がスパート。国府の速攻にサイドから西村、清水が着々と加点。選抜チームでコンビ不足の香川は高尾のロングで応戦するが、単発で京都のGK山下に守り切られ、前半を20―2と大差で折り返した。

後半に入っても、ミスが多かったものの京都が差を広げ、緒戦を勝利で飾った。

〔香川〕	得		〔京都〕	得
平田	0	GK	山下	0
石脇	0	GK	咲本	0
高尾	1	FP	国府	4
後井	0	FP	中村	2
竹内	2	FP	佐久間	1
渡里	2	FP	杉山	1
藤沢	0	FP	池辺	2
浜田	0	FP	西田	1
今田	1	FP	西村	5
中村	0	FP	楠本	5
西山	0	FP	清水	5
		FP	加藤	6
6	(0)	PT	(1)	32

（審・丹田・崎野）

熊　本（熊本教員ク）25（13―13、12―9）22 鳥　取（境港ク）

〔戦評〕前半は両チームともスピーディな走りとパスワークで1点を争う好ゲームとなった。熊本は鳥取のエース児玉をマンツーマンディフェンスで防御し、得意の速攻で得点を重ねたが、鳥取の粘り強い攻撃で前半終了寸前に同点とした。後半に入ってもシーソーゲームとなったが、残り5分より熊本が連続得点して逃げ切った。

〔鳥取〕	得		〔熊本〕	得
足川	0	GK	中野	0
中村	0	GK	金子	0
荒木	0	FP	松本	0
望月	1	FP	田中	0
田中	7	FP	川西	7
児玉	8	FP	奥園	0
松井	1	FP	宮瀬	0
松尾	3	FP	財満	8
六車	2	FP	北島	3
吉田	0	FP	四宮	5
山本	0	FP	建岡	0
		FP	野口	2
22	(6)	PT	(4)	25

（審・吉田・太田）

栃　木（栃の葉ク）24（13―8、11―11）19 大　阪（大阪教員ク）

〔戦評〕下馬評では試合巧者の栃木が断然有利とされていたが、いざゲームが始まると、大阪のスピード感あふれる攻撃になかなか攻守の歯車がかみ合わない栃木が苦戦を強いられた。前半残り10分で大阪のミスをつないだ栃木が速攻でようやくリズムをつかんだ。攻撃にあせりが出てミスの多くなった大阪だが、後半に入って随所にファイトあふれるプレーを見せ、最後まで巻返しを図ったが、前半の失点が大きく5点差を縮めることができなかった。

〔大阪〕	得		〔栃木〕	得
伊藤	0	GK	岩下	0
高橋	0	GK	染谷	0
裕	4	FP	中田	0
尾崎	2	FP	四元	0
前出	1	FP	山下	6
佐々木	0	FP	新開	0
高原	0	FP	武井	4
浦	0	FP	薄井	6
谷口	2	FP	岸	2
狩野	2	FP	滝口	1
前田	6	FP	小西	2
山崎	2	FP	中山	3
19	(4)	PT	(1)	24

（審・丹田・崎野）

2回戦

山　口 34（17―6、17―13）19 富　山

〔戦評〕前半、山口の固いディフェンスを富山が攻めあぐみ、やや雑な展開となり、山口が鋭い攻撃で速攻などで差々と加点し、17―6と山口のリードで終了する。

後半に入っても、山口の攻撃は衰えず、富山の甘くなったディフェンスをつき、一方的にリードを広げ、富山の追い上げを許さず快勝した。

〔富山〕	得		〔山口〕	得
水谷	0	GK	吉村	0
藤森	0	GK	古谷	0
越前	0	FP	飯島	4
中浦	1	FP	橋本	5
沢井	0	FP	吉兼	6
中山	4	FP	角	4
栗山	1	FP	岡村	0
小嶋	2	FP	原井	4
山崎	2	FP	中村	6
金原	6	FP	和田	0
矢田	3	FP	白川	0
		FP	片山	5
19	(4)	PT	(3)	34

（審・奥田・丸谷）

三　重 30（15―16、15―13）29 大　分

〔戦評〕前半、出だしから両チームともよく足が動き、点を取り合うという見応えのあるゲームとなった。三重は平松、大分は源内という両エースの活躍が目立っていた。

後半も前半と同様の1点を争うゲームとなったが、最後の最後で三重のサウスポー平山がカットインを決め、接戦に結着をつけた。

〔大分〕	得		〔三重〕	得
大久保	0	GK	三宅	0
財満	0	GK	高木	0
源内	6	FP	平山	5
足立	6	FP	香西	3
麻生	1	FP	弥吉	3
石本	5	FP	関根	4
二宮	3	FP	平松	9
南	1	FP	東	0
渡辺	0	FP	松下	0
朝来	6	FP	山下	6
山地	0	FP		
甲斐	1	FP		
29	(0)	PT	(4)	30

（審・茨木・堀田）

京　都 36（15―8、21―8）16 岩　手

〔戦評〕京都は立ち上がり動きの良い守りと攻めで得点を重ね、前半7分過ぎには6―1と大きくリード。しかし、12分に加藤が不正交代で退場してからリズムが狂い、落ち着いたプレーの岩手にじりじりと差を詰められて16分には1点となった。それでも、23分過ぎのペナルティーをきっかけに立ち直り、得意の速攻を連発、前半15―8とした。完全にペースをつかんだ京都は、後半に入っても全員がよく走り、大量得点をあげて快勝した。

〔岩手〕	得		〔京都〕	得
佐藤	0	GK	山下	0
多田	0	GK	咲本	0
谷川	5	FP	国府	5
中島	5	FP	中村	1
及川	0	FP	佐久間	3
大沢	0	FP	杉山	1
山口	0	FP	池辺	0
森田	0	FP	西田	2
谷藤	3	FP	西村	4
小田中	3	FP	楠本	7
藤原	0	FP	清水	4
高橋	0	FP	加藤	9
16	(3)	PT	(6)	36

（審・秋永・能波）

新設された成年男子２部は、地元・京都が初優勝を飾った

栃木 37（21−15／16−11）26 熊本

〔戦評〕栃木は立ち上がり武井のロングシュートなどで４点を連取し、中頃までスピーディな攻撃をくり返しリズムに乗った。

熊本は中頃まで栃木の厚いディフェンスに攻撃を阻まれていたが、残り10分頃よりリズム感が出てきて、ようやく財満のシュートなどで５点差まで追いつき前半を終了した。

後半に入っても、両チームともよく走り、スピーディな攻撃を展開するが、地力に勝る栃木が10点差をつけ勝利をものにした。

得	〔熊本〕		〔栃木〕	得
0	中野	GK	岩下	0
0	金子	GK	染谷	0
0	松本	FP	中田	4
		FP	四元	1
6	川西	FP	山下	7
1	奥園	FP	新開	1
0	宮瀬	FP	武井	12
7	財満	FP	薄井	3
4	北島	FP	岸	1
4	四宮	FP	滝口	5
0	建岡	FP	小西	1
4	野口	FP	中山	2
26	(4)	PT	(3)	37

（審・福井　田中）

準決勝

三重 33（16−13／17−13）26 山口

〔戦評〕三重は開始早々動きの悪い山口守備を突破し、５分には４−１とリードするが、動きの良くなった山口は角のミドルで10分には４−４、15分には８−７と逆転する。25分までは得点の取り合いとなるが、地力に勝る三重は山口のミスを得点に結びつけ17−13で前半をリードする。

後半になると、三重は平松のミドルと速攻で加点する。山口は片山のロングで５点差までつめるがイージーミスが出て三重が逃げ切る。

得	〔山口〕		〔三重〕	得
0	吉村	GK	三宅	0
0	古谷	GK	高木	0
0	飯島	FP	平山	5
2	橋本	FP	香西	4
3	吉兼	FP	弥吉	4
9	角	FP	関根	4
0	岡村	FP	平松	11
1	原井	FP	東	1
2	中村	FP	松下	0
0	和田	FP	山下	4
0	白川	FP		
9	片山	FP		
26	(2)	PT	(2)	33

（審・福井　田中）

京都 30（15−13／15−7）20 栃木

〔戦評〕立ち上がり両チームとも固さが見られ、思うように点が取れない。しかし、15分を過ぎてからは京都がGKに山下の好守から次第にペースをつかみ、楠本のロングなどで一気に差を広げた。一方栃木も武井のロング、山下の速攻で得点するも、京都のスピードに乗った攻撃を守り切ることができず力尽きた。後半中ばくらいから勝負が決まってしまい、やや面白味に欠けたゲームとなったのが残念であった。

得	〔栃木〕		〔京都〕	得
0	岩下	GK	山下	0
0	染谷	GK	咲本	0
1	中田	FP	国府	7
0	四元	FP	中村	0
5	山下	FP	佐久間	5
0	新開	FP	杉山	0
6	武井	FP	池辺	0
1	薄井	FP	西田	0
0	岸	FP	西村	5
6	滝口	FP	楠本	10
1	小西	FP	清水	2
0	中山	FP	加藤	1
20	(2)	PT	(1)	30

（審・北山　大原）

3位決定戦

栃木 29（14−10／15−16）26 山口

〔戦評〕開始早々、山口が先手をとったが、すぐさま栃木がロングで取り返し、一進一退のゲームで後半勝負になった。

後半に入っても互角の勝負をしたが、わずかに栃木のロングの差により3点差をつけた。

得	〔山口〕		〔栃木〕	得
0	吉村	GK	岩下	0
0	古谷	GK	染谷	0
1	飯島	FP	中田	2
5	橋本	FP	四元	0
5	吉兼	FP	山下	5
9	角	FP	新開	0
0	岡村	FP	武井	10
1	原井	FP	薄井	3
0	中村	FP	岸	0
0	和田	FP	滝口	5
0	白川	FP	小西	2
5	片山	FP	中山	2
26	(2)	PT	(5)	29

（審・茨木　堀田）

決勝

京都 22（14−8／8−8）16 三重

〔戦評〕両チームとも動きが固く、ミスの目立った試合運びとなり８−８で前半を終了。後半に入っても一進一退のゲームが続いたが、三重の退場の間に京都が２点連取し、主導権を握った。京都はその後じわじわと点差を広げた。23分、あせりが出始めた三重が２人連続で退場となり、試合が決定づけられた。

得	〔三重〕		〔京都〕	得
0	三宅	GK	山下	0
0	高木	GK	咲本	0
2	平山	FP	国府	4
1	香西	FP	中村	0
1	弥吉	FP	佐久間	1
2	関根	FP	杉山	0
6	平松	FP	池辺	0
2	東	FP	西田	4
0	松下	FP	西村	3
2	山下	FP	楠本	5
		FP	清水	3
		FP	加藤	2
16	(1)	PT	(1)	22

（審・岡本　清水）

少年男子

1回戦

神奈川（全神奈川） 30 （15—13 15—12） 25 **福岡**（福岡県選抜）

〔戦評〕神奈川は田中のミドルで先取点、対する福岡も斉藤の速攻で追いかけるとまずは互角のすべり出し。福岡は神奈川の小川を中心とした手渡しパスを含めたコンビプレーに対しオールコートプレスにディフェンス隊形にチェンジ。15—13と神奈川リードで前半を折り返した。

後半に入って、オールコートプレスに慣れた神奈川が徐々に加点、速攻で追いすがる福岡をふり切った。

	〔福岡〕	得	〔神奈川〕	得
GK	森山	0	野口	0
GK	文	0	岡崎	0
FP	斉藤	9	小川	11
FP	近藤	0	田中	5
FP	川口	3	松澤	0
FP	清水	7	西村	0
FP	志田	5	小沢	5
FP	誉田	1	小飛山	0
FP	菰原	0	熊倉	5
FP	伊藤	0	小林	2
FP	馬場	0	大浦	2
FP	佐伯	0	石川	0
PT	(1)	25	(0)	30

（審・島崎 井上）

三重（三重選抜） 18 （11—6 7—8） 14 **広島**（広島選抜）

〔戦評〕前半、三重は早いパスワークからミドルシュート、ポストプレーと多彩な攻撃で着々と得点、一方広島は前半調子が出ず中盤から終盤にかけて少々上向き得点した。後半に入り、一進一退の攻防が続いたが、前半の貯金がそのまま点差となり、三重が勝利をものにした。

	〔広島〕	得	〔三重〕	得
GK	岡田	0	川島	0
GK	西岡	0	藤澤	0
FP	天野	6	梅山	0
FP	渡辺	1	蛭川	2
FP	追田	1	加藤	1
FP	神田	3	岩本	0
FP	大平	1	高峰	6
FP	竹国	1	多湖	6
FP	柏原	0	久保田	1
FP	半田	0	稲垣	0
FP	石川	0	栗本	2
FP	清水	1	水谷	0
PT	(1)	14	(4)	18

（審・奥田 丸谷）

富山（全富山） 25 （10—10 15—6） 16 **北海道**（北海道選抜）

〔戦評〕試合開始とともに両チームはシュートを乱打するが、決定まで行かない。富山のペナルティースローが決まってからお互いに持ち味が出て、富山のフォーメーション、北海道の中央、速攻と互角の勝負で前半10—10。

後半は富山のディフェンスも良くなり、ボール回しのリズム感が出てきて速攻フォーメーションが決まり、着実に加点を続けた。一方北海道は焦りが出てシュートも単調になり、徐々に引き離されて自滅した。

	〔北海道〕	得	〔富山〕	得
GK	松	0	浜元	0
GK	小林	0	堀川	0
FP	駒野	2	飯山	3
FP	三橋	5	新井	3
FP	岩崎	0	柿谷	8
FP	伊藤	3	田中	2
FP	山崎	2	五十里	0
FP	和泉	0	江幡	0
FP	中島	3	関谷	1
FP	宮田	0	谷田	3
FP	飯原	0	吉田	5
FP	西沢	1	横越	0
PT	(2)	16	(4)	25

（審・吉田 太田）

大阪（大阪選抜） 24 （11—9 13—10） 19 **熊本**（全熊本選抜）

〔戦評〕前半立ち上がりから大阪は4点連取し優位に立つが、熊本も相手の動きを読めるようになってから追い上げ、1点を争うゲームとなる。

後半になって熊本は3点連取してがんばるが、パスミスなどが出て大阪に6点を連取され、一気に勝負がついた。

	〔熊本〕	得	〔大阪〕	得
GK	荒木	0	吉田	0
GK	林田	0	田端	0
FP	鶴田	1	庄司	0
FP	宮本玲	0	中野	3
FP	宮本輝	0	芝本	5
FP	鎌田	5	深江	1
FP	花岡	3	森岡	7
FP	岩本	6	安井	6
FP	平田	4	構渕	0
FP	松谷	0	池田	1
FP	梅井	0	鴨谷	0
FP			下山	1
PT	(4)	19	(3)	24

（審・北山 大原）

東京（明星高） 22 （13—9 9—11） 20 **愛媛**（新居浜工高）

〔戦評〕両者ともにチームワーク練習量とも十分で、互角の戦いを繰り広げたが、コンビプレーの確実さ、ミスの少なさで東京が前半13—9とリードを奪った。

愛媛のポイントゲッター神野に対するしつような東京のディフェンスが功を奏し、なかなか点差を縮めることができない。後半残り5分、3分、1分とたて続けに同点チャンスをミスでつぶした愛媛の善戦むなしく、22—20で東京が勝利をおさめた。

	〔愛媛〕	得	〔東京〕	得
GK	滝本	0	守随	0
GK	近藤	0	小林	0
FP	丸川	2	倉持	5
FP	平井	1	三浦	1
FP	河端	1	井手	2
FP	新名	0	前田	1
FP	伊藤	4	種茂	0
FP	神野	9	五島	11
FP	大西	2	金井	0
FP	白石	1	遠藤	2
FP	森田	0	田代	0
FP	池浦	0	島沢	0
PT	(1)	20	(1)	22

（審・島崎 井上）

京都（京都選抜） 25 （12—8 13—5） 13 **青森**（青森）

〔戦評〕多くの応援が来た京都は立ち上がり片山、福田の連続速攻で得点し、自分のペースに乗れるかと思ったが、一方の青森もポストプレーなどで得点を重ね、前半12—8で京都がリード。

後半に入り、青森はGK中村の好守で中盤までせり合いが続くが、京都が後半一気に離した。

	〔青森〕	得	〔京都〕	得
GK	中村	0	福井	0
GK			湯浅	0
FP	市川	4	湯山	1
FP	山田	3	片山	9
FP	小鹿	3	福田	6
FP	澤田	0	平井	0
FP	伊藤	2	大野	0
FP	藤田	0	山本	1
FP	福士	0	波多野	1
FP	珍田	1	小川	0
FP	大村	0	西田	0
FP	大浪	0	中川	7
PT	(1)	13	(5)	25

（審・奥田 丸谷）

千葉（千葉選抜） 31 （15—6 16—8） 14 **滋賀**（滋賀選抜）

〔戦評〕互角のすべり出しであったが、徐々に千葉がパスカットからの速攻が決まり出し、さらにゴールエリア前でのフェイントからのシュートが得点に結びつき加点する。一方滋賀は、ディフェンスの甘さとパスワークの不正確さが目立ち、攻めあえぐ場面が多くあり敗退した。

	〔滋賀〕	得	〔千葉〕	得
GK	森	0	小林	0
GK	稲畑	0	栗山	0
FP	川瀬	0	中野	5
FP	吉川	7	坂井	2
FP	森田	1	佐藤	2
FP	馬場	2	中井	2
FP	服部	0	武井	1
FP	霜出	1	塚越	3
FP	飯田	1	吉橋	2
FP	清藤	1	高橋	3
FP	佐藤	1	藤本	9
FP	坂口	0	村杉	2
PT	(1)	14	(3)	31

（審・吉田 太田）

愛知（愛知選抜） 20 （10—7 10—11） 18 **沖縄**（沖縄選抜）

〔戦評〕愛知はサイド、ミドル、速攻と多彩な攻撃で得点をねらうが、沖縄のGKの好守もありペースをつかめないまま3点差で前半を終った。

後半に入り、攻守のリズムを狂わせた沖縄のスキをつき7点連取し、完全にペースをつかみ、終了

間際まで速攻で粘る沖縄を2点差で下した。

〔沖縄〕	得		得	〔愛知〕
長嶺	0	GK	0	中野
新川	0	GK	0	関
當間	1	FP	1	嘉田
島袋	2	FP	4	光田
赤嶺	4	FP	0	中村
中村	6	FP	3	鈴木
照屋保	0	FP	4	鳥本
奥間	1	FP	0	野々
仲里	1	FP	2	本山
津波	3	FP	3	山内
照屋祐	0	FP	0	丹羽
恵	0	FP	3	日原
(0)	18	PT	20	(3)

〔審・北山 大原〕

2回戦

神奈川15〔7—10 8—4〕14三重

〔戦評〕前半、三重・蛭川、高峰、神奈川・小川、小沢を中心とした攻防で白熱した展開となった。10分まで5—5、20分に8—6と進み、10—7三重が前半をリードした。後半に入り、神奈川は再三速攻をするがGKの好守に阻まれ思うように得点できない。しかし、16分神奈川・田中、熊倉の連取により12—12とやっと追いついた。その後も神奈川必死の攻撃もGKに阻まれ、1点を争う展開が最後まで続いた。終了直前神奈川・田中が劇的なサヨナラシュートで勝負を決めた。

〔三重〕	得		得	〔神奈川〕
川島	0	GK	0	野口
藤沢	0	GK	0	岡崎
梅山	0	FP	3	小川
蛭川	3	FP	3	田中
加藤	1	FP	0	松澤
岩本	0	FP	0	西村
高峰	6	FP	6	小沢
多瀬	2	FP	0	小飛山
久保田	0	FP	2	熊倉
稲垣	0	FP	0	小林
栗本	2	FP	1	大浦
水谷	0	FP	0	石川
(4)	14	PT	15	(2)

〔審・北山 大原〕

大阪28〔14—5 14—8〕13富山

〔戦評〕前半、大阪は安井、中野などの活躍により早いパスワークからポスト、サイド、ロングシュートなどで確実に得点を重ねた。

〔富山〕	得		得	〔大阪〕
浜元	0	GK	0	吉田
堀川	0	GK	0	田端
飯山	2	FP	3	庄司
新井	0	FP	7	中野
柿谷	2	FP	0	芝本
田中	0	FP	5	深江
五十里	0	FP	3	森岡
江幡	0	FP	7	安井
関谷	0	FP	0	溝渕
谷田	5	FP	2	池田
吉田	4	FP	0	鴨谷
横越	0	FP	1	下山
(1)	13	PT	28	(1)

〔審・田中 尾高〕

また全員が得点できる能力がありGK吉田の好守から速攻で着実に得点したのに対し、富山は谷田、吉田の個人技に頼りすぎ全体的に力不足の感じがした。それだけ大阪が攻守に優れていた。

京都15〔8—6 7—6〕12東京

〔戦評〕前半、両チームともセット、速攻と互いに白熱した戦いが続くが、結局8—6と京都リードで前半終了。後半に入り、東京逆転するが京都連続のペナルティーと残り1分、ポストより決定打を決め15—12で京都の勝ち。

〔東京〕	得		得	〔京都〕
守随	0	GK	0	福井
小林	0	GK	0	湯浅
倉特	1	FP	0	湯山
三浦	2	FP	2	片山
井手	1	FP	4	福田
前田	0	FP	0	平井
種茂	0	FP	0	大野
五島	5	FP	3	山本
金井	0	FP	1	波多野
遠藤	3	FP	2	小川
田代	0	FP	0	西田
島沢	0	FP	3	中川
(2)	12	PT	15	(4)

〔審・北山 大原〕

千葉15〔6—5 9—9〕14愛知

〔戦評〕立ち上がり両チームとも固さが見られ、10分過ぎまで1—1。その後、千葉は長身の高橋を中心に得点を重ねリードするが、愛知もカットイン、速攻などで追い上げ、前半は千葉の1点リードで終了。

後半に入り愛知に退場者があり、千葉が確実に得点をあげて差を広げたが、愛知も21分過ぎ本山のサイドで攻撃で同点とし、一進一退の展開となる。最後は、千葉が中井のポストプレーで逃げ切った。

〔愛知〕	得		得	〔千葉〕
中野	0	GK	0	小林
関	0	GK	0	栗山
嘉田	0	FP	3	中野
光田	3	FP	1	坂井
中村	0	FP	1	佐藤
鈴村	0	FP	1	中井
鳥本	3	FP	0	武井
野々	0	FP	1	塚越
本山	4	FP	1	吉橋
山内	3	FP	5	高橋
丹羽	0	FP	2	藤本
日原	1	FP	0	村杉
(0)	14	PT	15	(2)

〔審・尾高 田中〕

少年男子・大阪の森岡のシュート

準決勝

大阪21〔15—13 6—6〕19神奈川

〔戦評〕前半、全員が得点能力のある大阪は、多彩な攻撃で主導権を握る展開となり、大阪が2点リードで折り返す。神奈川も後半に入り、大浦のサイド、田中のカットインで同点とするが、10分過ぎ大阪は速攻などで3点差まで広げる。しかし、神奈川も早いパスワークからシュートを決め、再び同点とする。結局、終了3分前、相手ミスを確実に決めた大阪が勝利をものにした。

〔神奈川〕	得		得	〔大阪〕
野口	0	GK	0	吉田
岡崎	0	GK	0	田端
小川	6	FP	0	庄司
田中	4	FP	3	中野
松澤	0	FP	4	芝本
西村	0	FP	5	深江
小沢	6	FP	3	森岡
小飛山	0	FP	3	安井
熊倉	1	FP	0	溝渕
小林	0	FP	1	池田
大浦	2	FP	0	鴨谷
石川	0	FP	2	下山
(1)	19	PT	21	(2)

〔審・丹田 崎野〕

千葉17〔8—8 9—7〕15京都

〔戦評〕前半、両チームともエースの活躍により追いつ追われつのスタートとなった。京都は、速攻、ポストなどチャンスをつくったが、千葉のGKの攻守により8―8で前半を終了した。

後半、千葉は長身の高橋がフリースローからシュートを決めて加点していった。一方京都は、千葉の堅い守りを攻めあぐみ、2点の差をつめることができなかった。

	〔京都〕	得	〔千葉〕	得
GK	福井	0	小林	0
GK	湯浅	0	栗山	0
FP	湯山	0	中野	3
FP	片山	4	坂井	0
FP	福田	2	佐藤	3
FP	平井	0	中井	0
FP	大野	0	武井	0
FP	山本	2	塚越	1
FP	波多野	1	吉橋	0
FP	小川	2	高橋	4
FP	西田	0	藤本	6
FP	中川	4	村杉	0
PT	(4)	15	(2)	17

〔審・北山、大原〕

3位決定戦

神奈川 22（12―6、10―9）15 京都

〔戦評〕前半、京都はいつもより動きが悪く、神奈川に6点差をつけられる。後半立ち上がりにスカイプレーを決めムードを盛り上げた京都は3点差までつめ寄るが、神奈川も小川を中心にペースを取り戻し、GKの攻守もあり、前半のリードを守って逃げ切る。

	〔京都〕	得	〔神奈川〕	得
GK	福井	0	野口	0
GK	湯浅	0	岡崎	0
FP	湯山	0	小川	8
FP	片山	5	田中	8
FP	福田	1	松澤	0
FP	平井	1	西村	0
FP	大野	0	小沢	3
FP	山本	0	小飛山	0
FP	波多野	1	熊倉	0
FP	小川	1	小林	0
FP	西田	0	大浦	3
FP	中川	6	石川	0
PT	(3)	15	(4)	22

〔審・田中、尾高〕

決勝

大阪 22（11―5、11―13）18 千葉

〔戦評〕大阪は1対1のフェイントからの攻撃を中心とし、一方千葉は高橋のロング、藤本のスピードプレーを中心とした攻撃で、前半は大阪のディフェンスが固く11―5で折り返した。しかし、後半に入りディフェンスを固めた千葉は、パスカットからの速攻、カットイン、ロングで追い上げ、残り7分15―16と1点差につめ寄ったが、大阪はミドル、PT、中央からのフリースローフォーメーションで突き放した。

	〔千葉〕	得	〔大阪〕	得
GK	小林	0	吉田	0
GK	栗山	0	田端	0
FP	中野	2	庄司	1
FP	坂井	0	中野	6
FP	佐藤	1	芝本	3
FP	中井	1	深江	2
FP	武井	0	森岡	6
FP	塚越	2	安井	2
FP	吉橋	1	溝渕	0
FP	高橋	6	池田	1
FP	藤本	5	鴨谷	0
FP	村杉	0	下山	1
PT	(1)	18	(1)	22

〔審・秋永、能汲〕

少年女子

1回戦

神奈川（全神奈川）22（13―5、9―7）12 熊本（熊本選抜）

〔戦評〕前半、開始早々に熊本はロングで先制、しかし神奈川は5分を過ぎた頃より固さがほぐれ、随所に好プレーを展開、ポスト、ロング、速攻と着実に加点し、13―5で終了。

後半に入り、熊本もよく走り互角に戦うが、前半の失点が大きくひびき、初戦突破はならなかった。

	〔熊本〕	得	〔神奈川〕	得
GK	城下	0	森田	0
GK	岡田	0	春川	0
FP	斉藤	2	井上	8
FP	松村	0	奥山	4
FP	松井	6	佐藤	1
FP	杉本	2	山田	5
FP	田中	0	島袋	2
FP	鶴田	0	村端	0
FP	橋本	1	清水	0
FP	栗林	0	山口	1
FP	白石	1	松井	1
FP	田代	0	伊藤	0
PT	(3)	12	(3)	22

〔審・岡本、清水〕

滋賀（彦根商高）19（10―9、4―5、1―1、4―1）16 静岡（静岡選抜）

〔戦評〕静岡が先行したが、滋賀が5分過ぎに追いつきペースをつかむかに見えたが、ここ一番というときにミスが目立ち、引き離すことができなかった。後半に入り12分過ぎまで両チームにミスが目立ち、なかなか得点できなかった。15分に静岡が追いつき両チーム1点ずつ加点し、延長に入る。延長の後半に入り、滋賀は相手ミスに乗じて連続速攻により静岡を突き放した。

	〔静岡〕	得	〔滋賀〕	得
GK	坂本	0	圓城	0
GK	海野	0	棚池	0
FP	上倉	5	矢野	2
FP	月見里	3	山田	2
FP	一ノ宮	0	嶋佐	2
FP	畑口	0	越智	6
FP	青木	2	山尾香	4
FP	望月	1	吉本	1
FP	北村	4	山尾陽	2
FP	森島	1	浅居	0
FP	添畑	0	松山	0
FP	五十嵐	0	井出	0
PT	(1)	16	(2)	19

〔審・茨木、堀田〕

京都（京都選抜）20（11―6、9―6）12 北海道（北海道選抜）

〔戦評〕1年生を主体とした若いチーム・北海道は、ゲーム開始からセット戦に持ち込もうとした。一方、地元の声援を背景に京都は速い展開から、ロングシュート、カットインと速攻戦を企図した。結果は、京都が終始リードし、まず緒戦を突破した。北海道に惜しまれるのは、ポスト、カットインにこだわりすぎたことである。後半、ミドルシュートを狙ったが、時すでに遅しの感があった。

	〔北海道〕	得	〔京都〕	得
GK	澤部	0	梅景	0
GK	佐藤	0	田中	0
FP	和歌	1	鳥越	1
FP	和田	0	原田	3
FP	三輪	4	馬場	4
FP	岡崎	2	佐藤	1
FP	森山	3	立野	0
FP	大野	2	杉本	0
FP	小島	0	滝	0
FP	長谷川	0	長谷	5
FP	山田	0	竹中	3
FP			松浦	3
PT	(2)	12	(2)	20

〔審・秋永、能波〕

宮城（全宮城）16（8―7、8―7）14 愛媛（今治南高）

〔戦評〕開始10分、両チームともにシュートチャンスをつかむが、得点に結びつかない。宮城は主将の片倉からのボール回しからのロングシュートに対し、愛媛は早いパス回しからの速攻の攻撃で8―7で宮城リードで前半終了。

後半も宮城は片倉を中心に攻撃し、2点リードで宮城が勝った。愛媛は全員がよく走ってシュートチャンスまではパスはつないだものの得点に結びつかなかった。

	〔愛媛〕	得	〔宮城〕	得
GK	鎌田	0	今野	0
GK	鳥生	0	伊藤幸	0
FP	山崎	0	片倉	3
FP	加藤	5	大友	4
FP	渡部和	3	大沼	2
FP	八木	2	鈴木	2
FP	大澤	0	大森	0
FP	木村	1	佐藤里	2
FP	渡部信	1	佐藤裕	0
FP	高田	2	相澤	1
FP	森	0	伊藤純	2
FP	渡邊	0	小沢	0
PT	(1)	14	(1)	16

〔審・中本、渡辺〕

石川（石川選抜）28（14―6、14―11）17 沖縄（沖縄選抜）

〔戦評〕前半、やや固さのある沖縄がミスを繰り返し、石川GKの好守もあり、速攻、ロング、ステ

ップなどで着々と加点し14—6で終了。後半立ち上がり、リズムの出て来た沖縄が速攻などで反撃するが、石川もよく動き、カットインプレーなどで沖縄のディフェンスを揺さぶり得点を重ねる。沖縄にとっては、前半の失点が大きすぎ、石川が前半のリードを生かし勝利を収めた。

得	〔沖縄〕		〔石川〕	得
0	天久	GK	牧	0
0	真喜志	GK	小前田	0
1	大城	FP	阿部	8
4	儀保	FP	谷本	9
0	真島	FP	西田	4
2	當山	FP	山本	1
2	金城	FP	大田	0
3	比嘉	FP	谷下	2
0	仲石	FP	高田	0
2	又吉	FP	松下	0
0	冨着	FP	石村	2
3	宇栄原	FP	金坂	2
17	(3)	PT	(1)	28

（審・岡本、清水）

東京（東京少年女子）**24**〔11—12、13—10〕**22 愛知**（愛知選抜）

〔戦評〕多彩な攻撃の東京と速攻での得点が多い愛知の戦い。前半15分までは東京のペースで進んで行くが、点差が開くとディフェンスの集中力がなくなり愛知に得点を許す。粘りの愛知は残り1分で逆転し、1点差で前半を折り返す。

後半7分には東京がペースに乗り逆に6点差をつけるが、前半と同様東京の集中力がなくなり愛知が食い下がるが力及ばなかった。

得	〔愛知〕		〔東京〕	得
0	河合	GK	戸塚	0
0	徳永	GK	小島	0
6	山田	FP	高橋	4
0	大橋	FP	村田	1
6	吉本	FP	執印	6
2	国枝	FP	中澤	0
0	陰	FP	中社	0
4	塩田	FP	桐谷	6
3	飯田	FP	本間	4
0	小洞	FP	木下	0
1	宮田	FP	鷲宮	1
0	田工	FP	佐藤	2
22	(5)	PT	(0)	24

（審・茨木、堀田）

山口（山口選抜）**15**〔8—2、7—9〕**11 福岡**（福岡選抜）

〔戦評〕前半立ち上がり、山口は再三のチャンスをつくりながらシュートミスを繰り返し、得点をあげることができなかった。これに対し、福岡は数少ないチャンスを生かし、2—0とリードと奪った。しかし、地力に勝る山口がロング、速攻などで一気に8得点をあげ、前半で8—2とほぼ勝利を決定的なものにした。後半、福岡も特定マンツーに出るなど多彩なプレーを見せたが、前半の差を取り戻すことはできなかった。

得	〔福岡〕		〔山口〕	得
0	堺	GK	中村	0
0	浜里	GK	岡山	0
1	内永	FP	吉田	1
1	並松	FP	大前	3
2	宮本	FP	上村	4
3	野村	FP	清水	0
0	古賀	FP	善本	1
2	井上	FP	吉村	6
2	藤田	FP	佐藤	0
0	増子	FP	藤田	0
0	森田	FP	福永	0
0	河内山	FP	西本	0
11	(3)	PT	(1)	15

（審・秋永、能波）

埼玉（埼玉選抜）**17**〔8—8、9—8〕**16 大阪**（大阪選抜）

〔戦評〕福西のロングシュートでスタートを切った大阪は、堅い守りからの速攻やリズムのいいポストプレーで攻撃するが、中頃よりミスが目立った。逆に埼玉は、残り10分から佐藤のロングシュートなどで得点をあげ、8—8で折り返した。

後半に入り、両チームともリズムに乗った攻撃であった。残り3分に埼玉がマンツーマンにいったのが成功、1点差で逃げ切った。

得	〔大阪〕		〔埼玉〕	得
0	水口	GK	行武	0
0	西住	GK	小笠原	0
0	西村	FP	佐藤優	11
1	橋本	FP	長島	2
0	三橋	FP	地引	1
1	石	FP	大熊	0
0	井上	FP	佐藤久	1
6	福西	FP	渡部	0
2	留河	FP	紅林	0
2	岸本	FP	金子	1
0	中西	FP	小林	0
4	八木	FP	佐々木	1
16	(2)	PT	(4)	17

（審・中本、渡辺）

2回戦

神奈川 12〔8—5、4—6〕**11 滋賀**

〔戦評〕立ち上がり固さの見られる滋賀は10分過ぎまでノーゴール。これに対し、神奈川は持ち前のパスワークで着々と加点し、20分までに7—1とリード。しかし残り5分、ようやくリズムが出てきた滋賀はよく動き4点取り、前半8—5で終了。

後半に入っても滋賀のリズムは良く、5分で8—8の同点に追いつく。ここで2本のペナルティースローを落とした滋賀から流れは神奈川へ。2点を連取したのが最終的に効き、1点差で辛くも神奈川で逃げ切った。

得	〔滋賀〕		〔神奈川〕	得
0	圓城	GK	森田	0
0	棚池	GK	春川	0
2	矢野	FP	井上	4
1	山田	FP	奥山	4
2	嶋佐	FP	佐藤	0
4	越智	FP	山田	2
1	山尾香	FP	島袋	0
0	吉本	FP	村端	0
1	山尾陽	FP	清水	0
0	浅居	FP	山口	0
0	松山	FP	松井	2
0	井出	FP	伊藤	0
11	(2)	PT	(3)	12

（審・岡本、清水）

宮城 12〔7—5、5—4〕**9 京都**

〔戦評〕ゲーム開始早々、右サイドからのシュートで先行した京都は、リズムに乗り、4—2とリードした。しかし、宮城もエース佐藤（里）の切れの良いロングシュートで追いかけ4点連取し、前半の主導権を握った。後半に入ると、両チームともにシュートが決まらず、ロースコアーの息づまる接戦となった。しかし、セット力に勝る宮城は、残り10分を切って連取し、接戦にピリオドを打った。

得	〔京都〕		〔宮城〕	得
0	梅景	GK	今野	0
0	田中	GK	伊藤幸	0
0	鳥越	FP	片倉	1
1	原田	FP	大友	2
2	馬場	FP	大沼	1
1	佐藤	FP	鈴木	1
0	立野	FP	大森	0
0	杉本	FP	佐藤里	6
0	滝	FP	佐藤裕	0
1	長谷	FP	相澤	1
3	竹中	FP	伊藤純	0
1	松浦	FP	小沢	0
9	(3)	PT	(1)	12

（審・秋永、能波）

東　京20（7−9 / 13−9）18石　川

〔戦評〕石川が立ち上がりからよく動き、谷本からの展開でカットインからサイドシュート、阿部のシュートで10分まで5−1とリード。東京も速攻で反撃してリズムをつくり、ペナルティースローなどで15分に1点差まで迫る。残り10分追いつ追われつの好ゲーム。9−7で前半を終了。

後半に入り、東京の速攻、桐谷のジャンプシュートで得点、石川もエース谷本のジャンプシュートで得点し、一進一退の展開。残り3分、ポストシュートで18−18の同点から残り1分に速攻を決めて東京が勝利した。

〔石川〕	得		得	〔東京〕
牧	0	GK	0	戸塚
小前田	0	GK	0	小島
阿部	4	FP	1	高橋
谷本	6	FP	5	村田
西田	0	FP	4	執印
山本	0	FP	0	中澤
大田	0	FP	0	中社
谷下	2	FP	7	桐谷
高田	0	FP	1	本間
松下	1	FP	0	木下
石村	5	FP	0	鷲宮
金坂	0	FP	2	佐藤
(4)	18	PT	20	(1)

（審・岡本　清水）

山　口17（7−9 / 10−7）16埼　玉

〔戦評〕小雨の降る中で埼玉はロングとポスト、山口は速攻を中心とした攻めで中盤4−4までせり合うが、結局、前半は以後埼玉がリードして9−7で折り返した。

後半に入り、山口が速攻とミドルで9−9、両チームともポスト攻撃を中心にシーソーゲームとなり、残り5分、埼玉がPTを決めて14−14。残り3分から、PT、速攻で山口17−15、終了間際で埼玉がPTを決めるが、結局17−16で山口が勝利をものにした。

〔埼玉〕	得		得	〔山口〕
行武	0	GK	0	中村
小笠原	0	GK	0	岡山
佐藤優	5	FP	4	吉田
長島	2	FP	5	大前
地引	3	FP	1	上村
大熊	0	FP	0	清水
佐藤久	4	FP	3	善本
渡部	1	FP	3	吉村
紅林	1	FP	0	佐藤
金子	0	FP	1	藤田
小林	0	FP	0	福永
佐々木	0	FP	0	西本
(3)	16	PT	17	(4)

（審・秋永　能波）

準決勝

神奈川20（10−9 / 10−5）14宮　城

〔戦評〕両チームともロング、速攻と良いゲーム内容であった。神奈川10−9で前半を終了する。後半に入り、宮城・佐藤（里）のロングが入らず、逆に宮城の速攻で加点、20−14で終了する。

〔宮城〕	得		得	〔神奈川〕
今野	0	GK	0	森田
伊藤幸	0	GK	0	春川
片倉	2	FP	5	井上
大友	4	FP	5	奥山
大沼	2	FP	2	佐藤
鈴木	1	FP	3	山田
大森	0	FP	4	島袋
佐藤里	4	FP	0	村端
佐藤裕	1	FP	0	清水
相澤	0	FP	0	山口
伊藤純	0	FP	1	松井
小沢	0	FP	0	伊藤
(0)	14	PT	20	(2)

（審・岩崎　村田）

東　京23（13−8 / 10−8）16山　口

〔戦評〕前半、両チームとも動きが固くミスが目立った。東京は、ミスからの速攻や執印のステップロングなどで着実に加点。山口は吉村の速攻、回り込みで対抗するが、前半13−8山口で終了する。

後半9分、東京・執印の退場に乗じて山口は3点差までつめ寄りそこから一進一退の攻防を繰り返すが、18分からの速攻を決められ、勝負が決定づけられた。ミスの多い試合であった。

〔山口〕	得		得	〔東京〕
中村	0	GK	0	戸塚
岡山	0	GK	0	小島
吉田	3	FP	2	高橋
大前	4	FP	1	村田
上村	1	FP	7	執印
清水	0	FP	0	中沢
善本	0	FP	0	中社
吉村	8	FP	5	桐谷
佐藤	0	FP	3	本間
藤田	0	FP	0	木下
福永	0	FP	2	鷲宮
西本	0	FP	3	佐藤
(5)	16	PT	23	(3)

（審・田中　尾高）



少年女子優勝の東京の桐谷のカットイン

3位決定戦

山　口16（10−2 / 6−6）8宮　城

〔戦評〕前半、宮城はシュートらしいシュートが少ないともに山口GKの好守もあり、一方的な展開となった。12分過ぎやっと1点を返し1−4とするも固さはとれず反則、シュートミスを繰り返し、17分に1−8、前半終了時までは2−10とさらに開いた。

後半、リズムが出てきた宮城が必死の反撃をするが、GKの再三の好守に阻まれ、追い上げるまでの得点を重ねることが出来なかった。一方山口は、GKの守りはもちろんのこと、吉田のシュートカットが宮城の得意とするミドルシュートを封じたことが勝因。

〔宮城〕	得		得	〔山口〕
今野	0	GK	0	中村
伊藤幸	0	GK	0	岡山
片倉	1	FP	2	吉田
大友	0	FP	2	大前
大沼	3	FP	1	上村
鈴木	2	FP	3	清水
大森	1	FP	1	善本
佐藤里	0	FP	5	吉村
佐藤裕	1	FP	1	佐藤
相澤	0	FP	1	藤田
伊藤純	0	FP	0	福永
小沢	0	FP	0	西本
(1)	8	PT	16	(2)

（審・岩崎　村田）

決勝

東　京25（9−9 / 16−9）18神奈川

〔戦評〕コンビプレーを身上とする神奈川とエース執印を中心に多彩な攻撃を持つ東京の白熱した展開が続く。中盤、東京の高いディフェンスを攻めあぐねた神奈川にミスが出て20分で9−6と東京リード。しかし残り2分、神奈川が3連続得点、9−9で終了。

後半に入り、神奈川の佐藤が退場の間に東京が4点取り、12分で17−12と5点リードを奪い主導権を握る。

その後神奈川も反撃を試るが、流れを変えることが出来ず、点差は徐々に開いた。堅いディフェンスと着実な試合展開をした東京の快勝であった。

〔神奈川〕	得		得	〔東京〕
森田	0	GK	0	戸塚
春川	0	GK	0	小島
井上	2	FP	4	高橋
奥山	2	FP	2	村田
佐藤	4	FP	10	執印
山田	3	FP	0	中沢
島袋	2	FP	0	中社
村端	1	FP	4	桐谷
清水	0	FP	4	本間
山口	0	FP	0	木下
松井	4	FP	1	鷲宮
伊藤	0	FP	0	佐藤
(1)	18	PT	25	(1)

（審・島崎　井上）

'88ソウルオリンピック 公式試合球



FOR THE 1988 SEOUL OLYMPIC GAMES
OFFICIAL GAME BALL

MTH3 AD
Selected cow-hide
molten
Made in Japan



日本で最初の国際ハンドボール連盟(I.H.F)公認球、モルテンハンドボール。その独特のリブ形状とパネル間の段差による"32面体ノンスリップ構造"で、確かな手がかりをつくり上げ、世界中のハンドボーラーから高い信頼を集めています。そしていま、新たに '88ソウルオリンピックの公式試合球に決定！その真価を発揮します。

molten®

株式会社 モルテン
東京本社 東京都墨田区横川5丁目5-7 〒130 ☎(03)625-7581(代)
大阪・名古屋・福岡・広島・札幌・ロサンゼルスU.S.A.・デュッセルドルフW.G.

果樹園と高原と。山梨の自然のおいしさをお菓子にたくして、日本全国へ。







Châteraisé

株式会社シャトレーゼ
山梨県東八代郡中道町下曽根3440-1 〒400-15
電話(0552)66-5151(大代)

各地学生秋季リーグ戦

北海道学生

▼男子1部

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
北教大釧路	23	16－12	7－11	23	北教大函館
函館大	52	25－6	27－4	10	北海学園大
北大	23	12－8	11－8	16	北大医学部
北大	34	16－8	18－6	14	北海学園大
函館大	51	26－4	25－0	4	北教大函館
北大医学部	31	19－14	12－10	24	北海学園大
函館大	43	17－5	26－2	7	北教大釧路
北大	30	15－9	15－4	13	北教大釧路
函館大	45	24－4	21－4	8	北大医学部
北教大函館	30	14－15	16－3	18	北海学園大
北教大釧路	18	7－7	11－10	17	北大
北教大函館	30	13－13	17－11	24	北海学園大
北大医学部	40	20－12	20－8	20	北教大函館
北教大釧路	30	15－12	15－14	26	北大医学部
函館大	21	11－4	10－5	9	北大

〔順位〕①函館大（5勝）②北海道教育大釧路分校（3勝1分1敗）③北海道大（3勝2敗）④北海道大医学部（2勝2敗）⑤北海道教育大函館分校（1勝1分3敗）⑥北海学園大（5敗）

▼女子

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
北海道女短大	18	10－7	8－3	10	北星学園大
北教大旭川	21	8－7	13－7	14	北海道女短大
北教大旭川	21	7－5	14－9	14	北星学園大

〔順位〕①北海道教育大旭川分校（2勝）②北海道女短大（1勝1敗）③北星学園大（2敗）

関東学生

▼男子1部

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
日体大	22	13－11	9－8	19	順天大
筑波大	25	10－12	15－8	20	国士大
早大	24	11－8	13－12	20	中大
日大	33	15－10	18－13	23	法大
中大	27	12－15	15－9	24	日大
早大	24	12－11	12－12	23	法大
日体大	18	10－6	8－9	15	筑波大
国士大	22	10－12	12－6	18	順天大
中大	27	13－11	14－9	20	順天大
筑波大	25	16－12	9－9	21	法大
日体大	31	17－15	14－13	28	早大
日大	22	13－10	9－12	22	国士大
順天大	24	14－14	10－8	22	法大
早大	26	11－14	15－12	26	国士大
筑波大	30	12－8	18－7	15	中大
日大	24	15－8	9－14	22	日体大
国士大	22	11－11	11－8	19	中大
日体大	29	15－9	14－9	18	法大
筑波大	23	12－9	11－11	20	早大
日大	30	16－9	14－14	23	順天大
国士大	35	16－12	19－10	22	法大
日体大	41	23－14	18－11	25	中大
早大	31	15－8	16－13	21	順天大
筑波大	31	15－11	16－11	22	日大
中大	26	13－11	13－12	23	法大
日体大	25	12－9	13－15	24	国士大
筑波大	31	12－13	19－7	20	順天大
早大	32	15－11	17－10	21	日大

〔順位〕①筑波大（6勝1敗）②日本体育大（6勝1敗）③早稲田大（4勝1分2敗）④国士舘大（3勝2分2敗）⑤日本大（3勝1分3敗）⑥中央大（3勝4敗）⑦順天堂大（1勝6敗）⑧法政大

（7敗）

〈最優秀選手〉
久保田昌俊（筑波大）

〈優秀選手〉
GK 片山 聡（筑波大）
FP 津金秀行（筑波大）
疋田雅己（筑波大）
佐藤陽一郎（日体大）
金井憲司（日体大）
甲斐章義（早大）
猪瀬厚史（順天大）

〈得点王〉
飯島慶太（順天大）50点

〈敢闘賞〉
浜川康一（中大）

〈新人賞〉
菰原克典（早大）

女子1部

東女体大	29	17－2	12－7	9	日女体大
日体大	36	21－5	15－7	12	東海大
筑波大	39	20－7	19－8	15	東学大
東女体大	25	15－3	10－8	11	日女体大
筑波大	36	15－5	21－3	8	東学大
日体大	40	20－4	20－8	12	東海大
日女体大	27	16－11	11－11	22	日体大
筑波大	38	19－6	19－5	11	東海大
東女体大	40	21－8	19－11	19	東学大
筑波大	38	19－3	19－4	7	東海大
日体大	31	21－10	10－10	20	日女体大
東女体大	30	15－5	15－3	8	東学大
東学大	17	9－8	8－8	16	東海大
筑波大	19	10－8	9－8	16	日女体大
東女体大	23	14－9	9－13	22	日体大
筑波大	26	14－5	12－4	9	日女体大
東学大	16	10－8	6－6	14	東海大
日体大	24	11－11	13－11	22	東女体大
日女体大	22	7－12	15－5	17	東海大
筑波大	25	14－10	11－10	20	東女体大
日体大	43	21－8	22－7	15	東学大
日女体大	30	13－5	17－3	8	東海大
日体大	46	24－11	22－13	24	東学大
東女体大	24	13－11	11－11	22	筑波大
日女体大	23	13－11	10－6	17	東学大
東女体大	32	18－2	14－2	4	東海大
筑波大	23	13－10	10－9	19	日体大
日女体大	25	10－9	15－10	19	東学大
東女体大	37	22－1	15－4	5	東海大
筑波大	31	15－16	16－6	22	日体大

〔順位〕①筑波大（9勝1敗）②東京女子体育大（8勝2敗）③日本体育大（6勝4敗）④日本女子体育大（5勝5敗）⑤東京学芸大（2勝8敗）⑥東海大（10敗）

〈最優秀選手〉
鋤崎浩美（筑波大）

〈優秀選手〉
GK 吉村佐和子（筑波大）
FP 相川貴子（筑波大）
和田陽子（筑波大）
中山ちはる（筑波大）
藤井直美（東女体大）
楠富美子（東女体大）
市来未央（日体大）

〈得点王〉
竹吉由江（日体大）88点

〈敢闘賞〉
井出めぐみ（日女体大）
中村美由紀（東学大）

〈新人賞〉
村山みどり（東女体大）

東海学生

▼男子1部

名城大	19	11－9	8－6	15	中京大
愛学大	34	17－10	17－9	19	愛教大
中部大	34	17－9	17－8	17	名城大
中京大	29	14－9	15－8	17	愛教大
愛教大	27	13－11	14－12	23	名大
中部大	37	16－18	21－12	30	名大
中京大	19	11－8	8－4	12	愛学大
中部大	43	20－7	23－8	15	愛教大
名城大	42	22－21	20－12	33	愛教大
中京大	26	14－12	12－11	23	名大
中部大	31	15－13	16－6	19	愛学大
名大	26	16－9	10－16	25	愛教大
名城大	33	17－12	16－9	21	名大
中京大	26	13－12	13－11	23	中部大

〔順位〕①中部大（4勝1敗）②中京大（4勝1敗）③名城大（4勝1敗）④愛知学院大（2勝3敗）⑤名古屋大（1勝4敗）⑥愛知教育大（5敗）※①～③は愛教大との対戦を除く得点差による。

▼女子

中京大 22（7－10，15－8）18 愛教大
中京女大 36（18－3，18－2）5 日福大
中京女大 30（12－8，18－5）13 愛教大
中京大 35（22－1，13－1）2 日福大
愛教大 21（11－2，10－5）7 日福大
中京女大 22（11－8，11－13）21 中京大
中京女大 36（20－4，16－1）5 日福大
中京大 23（8－7，15－5）12 愛教大
中京女大 25（15－8，10－7）15 愛教大
中京大 32（16－1，16－2）3 日福大
愛教大 不戦勝 日福大
中京大 24（13－10，11－12）22 中京女大

〔順位〕①中京女大（5勝1敗）②中京大（5勝1敗）③愛知教育大（2勝4敗）④日本福祉大（6敗）※①～②は日福大との対戦を除いた得点差による。

関西学生

▼男子1部

大体大 33（14－7，19－5）12 桃山学大
大経大 35（19－11，16－9）20 京産大
同大 23（13－10，10－8）18 京教大
大経大 24（9－10，15－9）19 京教大
京産大 23（11－10，12－9）19 桃山学大
大体大 16（10－4，6－8）12 同大
京産大 24（12－9，12－12）21 天理大
大体大 38（19－4，19－7）21 京教大
同大 棄権 桃山学大
大経大 25（12－4，13－9）13 桃山学大
天理大 28（16－10，12－12）22 京教大
京産大 20（11－7，9－10）17 同大
大経大 31（14－15，17－8）23 天理大
大体大 30（17－14，13－8）22 京産大
大経大 26（13－8，13－11）19 同大
大体大 37（16－10，21－5）15 天理大
桃山学大 19（13－9，6－9）18 天理大
京産大 35（20－13，15－5）18 京教大
桃山学大 25（14－7，11－9）16 京教大
天理大 23（10－12，13－10）22 同大
大経大 21（12－9，9－7）16 大体大

〔順位〕①大阪経済大（6勝）②大阪体育大（5勝1敗）③京都産業大（4勝2敗）④同志社大（2勝4敗）⑤天理大（2勝4敗）⑥桃山学院大（2勝4敗）⑦京都教育大（6敗）

▼女子1部

大体大 26（16－4，10－7）11 大教大
武庫川大 33（20－5，13－3）8 京教大
大教大 26（15－6，11－11）17 関外大
武庫川大 33（17－3，16－9）12 成蹊短大
大体大 26（14－5，12－1）6 京教大
大体大 28（12－9，16－8）17 成蹊短大
関外大 17（10－6，7－5）11 京教大
武庫川大 28（12－5，16－8）13 天理大
天理大 30（14－9，16－11）20 成蹊短大
武庫川大 32（17－7，15－7）14 成蹊短大
天理大 33（16－5，17－3）8 京教大
大教大 31（17－10，14－7）17 成蹊短大
大体大 38（20－6，18－7）13 関外大
京教大 15（7－8，8－3）11 成蹊短大
大体大 24（11－7，13－5）12 天理大
武庫川大 39（19－2，20－2）14 関外大
京教大 16（11－10，5－5）15 大教大
天理大 31（12－12，19－9）21 関外大
天理大 27（15－11，12－10）21 大教大
成蹊短大 23（12－7，11－11）18 関外大
大体大 17（7－9，10－7）16 武庫川大

〔順位〕①大阪体育大（6勝）②武庫川女大（5勝1敗）③天理大（4勝2敗）④京都教育大（2勝4敗）⑤大阪教育大（2勝4敗）⑥成蹊女子短大（1勝5敗）⑦関西外語大（1勝5敗）

第13回日本リーグ前期（10月23日～11月27日）

男・女とも大激戦を展開

男子

◇10月23日
（香川・香川町総合体育館）

大同特殊鋼 26（12―11、14―14）25 三陽商会

〔戦評〕前半は、大同のサイドシュート、ポストプレーが冴え、1点差でリードした。後半3分過ぎに三陽が一時リードし、一進一退の攻防となったが、大同の速攻が冴え、辛くもふり切った。

得	〔三陽〕		〔大同〕	得
0	宇田川	GK	上村	0
0	吉田	GK	秋吉	0
1	関	FP	田中	8
3	清家	FP	高村	1
0	田口	FP	朝生	3
6	大塚	FP	明石	2
3	砂川	FP	河井	0
2	山口	FP	横浜	4
8	浜田	FP	中本	1
2	実方	FP	名取	1
0	河村	FP	海江田	3
0	吉原	FP	植木	3
25	(3)	PT	(4)	26

（審・真木・柳原）

◇10月30日
（大分・県立体育館）

湧永製薬 17（9―7、8―9）16 本田技研鈴鹿

〔戦評〕前半15分まで5―2と湧永がリード、20分過ぎに本田は連続ペナルティースローを得て、結局前半は9―7と湧永のリードで折り返す。

後半15分から両チームとも早いテンポで攻撃をしかけ、追いつ追われつのゲームとなる。25分過ぎ、やや荒いディフェンスが目立つようになる。残り1分、本田に負傷退場者が出て、結局攻め切れずにタイムアップとなる。

得	〔本田〕		〔湧永〕	得
0	大畑	GK	徐	0
0	橋本	GK	井藤	0
2	真砂	FP	河原	6
0	福島	FP	玉村	4
2	藤井	FP	堀田	0
1	尾上	FP	中川	1
3	内藤	FP	長沢	2
3	粟屋	FP	荷川取	1
0	田口	FP	奥田	0
0	山本	FP	楢原	3
5	山村	FP	鎌塚	0
0	平子	FP	藤本	0
16	(4)	PT	(0)	17

（審・中本・福田）

◇10月30日
（神奈川・秋葉台文化体育館）

日新製鋼 29（16―14、13―14）28 大崎電気

〔戦評〕前半は一進一退のゲーム。終了30分前、日新はスカイプレー、速攻とたて続けに2点を入れ、前半は16―14と日新がリード。

後半はやや日新有利の展開となったが、大崎も粘って1点差で残り30秒ペナルティースローを得た。しかし、これをはずして結局1点差で日新が逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔日新〕	得
0	渡辺	GK	森田	0
0	矢内	GK	谷	0
4	松岡	FP	森	0
4	武田	FP	武田	5
8	首藤	FP	西山	7
0	中田	FP	高木	4
5	山本	FP	甲斐	2
3	越迫	FP	日野	0
0	菅田	FP	堀田	4
0	大野	FP	藤本	7
0	相馬	FP	野中	0
4	宮下	FP	木村	0
28	(2)	PT	(1)	29

（審・菊池・羽田）

◇11月3日
（岩手・紫波町立体育館）

大崎電気 27（14―12、13―9）21 大同特殊鋼

〔戦評〕18―18で迎えた大同のペナルティースローを大崎・矢内が阻止して、流れが大崎へ。大同はその後、植木の退場で5人での防御となったが、これは大同がよくしのいだ。菅田の2点連取、宮下の3点連取と苦しいところでたたみかけるような速攻を見せ、また、勝負どころでよく守った大崎がせり勝った。

得	〔大同〕		〔大崎〕	得
0	上村	GK	渡辺	0
0	秋吉	GK	矢内	0
6	田中	FP	松岡	1
3	内藤	FP	武田	0
3	朝生	FP	首藤	2
0	明石	FP	中田	1
0	河井	FP	山本	9
0	横浜	FP	越迫	0
5	中本	FP	菅田	5
2	名取	FP	熊谷	0
1	海江田	FP	山内	0
1	植木	FP	宮下	9
21	(2)	PT	(4)	27

（審・菅野・半田）

◇11月5日
（山口・徳山市体育館）

本田技研鈴鹿 24（11―12、13―10）22 日新製鋼

〔戦評〕前半立ち上がり、お互い激しいディフェンスでシュートがなかなか打てず、得点が入らなかった。20分過ぎに本田が2名の退場者を出して得点が動き出し、日新のスカイプレーから連続4点が入り、前半は日新の1点リードで終了した。後半に入り、日新の西山が得点を重ねるが、本田も山村、田口で追いかけ、一進一退のゲームとなった。残り時間7分、日新に退場者が出て本田が逆転し、そのまま逃げ切った。

得	〔日新〕		〔本田〕	得
0	森田	GK	大畑	0
0	谷	GK	橋本	0
0	森	FP	真砂	0
7	武田	FP	福島	0
7	西山	FP	藤井	6
4	高木	FP	尾上	1
2	甲斐	FP	内藤	4
1	日野	FP	粟屋	3
1	堀田	FP	田口	2
0	藤本	FP	山本	0
0	野中	FP	山村	8
0	木村	FP	平子	0
22	(2)	PT	(6)	24

（審・古富・岡村）

◇11月6日
（鳥取・境港市民体育館）

湧永製薬 31（14―8、17―12）20 三陽商会

〔戦評〕前半、両チームとも厳しいディフェンスチェックにあい、攻めあぐむが湧永が奥田のサイドシュートでペースをつかみ、得点を重ねる。一方三陽商会は、シュートミスもあり、15分過ぎに2―8と点差が開いた。その後、三陽も浜田、実方のロングシュート、カットインなどで8―4として折り返す。

後半に入ると、多彩な攻めを繰り出す湧永に対して、三陽は湧永の高いディフェンスに攻撃のリズムをつかめず、残り時間も少なくなって三陽の速攻が決まりだしたが、時すでに遅かった。

得	〔三陽〕		〔湧永〕	得
0	宇田川	GK	徐	0
0	吉田	GK	多田	0
2	関	FP	河原	4
1	清家	FP	玉村	9
0	田口	FP	堀田	4
6	大塚	FP	中川	3
2	砂川	FP	長沢	2
3	山口	FP	荷川取	3
3	浜田	FP	奥田	6
2	実方	FP	楢原	0
0	安藤	FP	鎌塚	0
1	吉原	FP	藤本	0
20	(5)	PT	(5)	31

（審・馬場・浜田）

◇11月12日（広島・広島県立体育館）

湧永製薬 20（12－11、8－7）18 大同特殊鋼

〔戦評〕前半は両者どちらも譲らず、ガップリ四つに組んで1点を争う好ゲームとなった。
　後半は、大同が主将・高村を中心に攻めるが、湧永の堅い守りにあい、決め手を欠く。その間に湧永は玉村、河原、奥田らの連続シュートで水をあけた。大同のシュートミスもあるが、湧永の一人一人の好守が光った。

〔大同〕	得		〔湧永〕	得
上村	0	GK	徐	0
秋吉	0	GK	多田	0
田中	6	FP	河原	4
高村	1	FP	玉村	7
朝生	1	FP	堀田	1
明石	5	FP	中川	2
河井	0	FP	長沢	0
横浜	2	FP	荷川取	1
中本	2	FP	奥田	4
名取	1	FP	楢原	1
海江田	0	FP	小崎	0
植木	0	FP		
(3)	18	PT	(2)	20

（審・古富、岡村）

◇11月13日（宮城・県スポーツセンター）

大崎電気 22（9－6、13－10）16 本田技研鈴鹿

〔戦評〕前半、両チームGKの活躍で、15分まで2－1というロースコアーであったが、大崎がロングにからんだポストプレーで抜け出し、前半を9－6とリードした。
　後半、大崎のディフェンスが本田の攻撃を阻止し、速攻でリードを広げ、勝利を得た。

〔本田〕	得		〔大崎〕	得
大畑	0	GK	渡辺	0
橋本	0	GK	松岡	0
真砂	0	FP	大和田	3
福島	1	FP	武田	3
藤井	4	FP	首藤	1
尾上	0	FP	中田	3
内藤	2	FP	山本	0
粟屋	2	FP	越迫	3
田口	1	FP	菅田	0
山本	1	FP	山内	3
山村	5	FP	宮下	1
平子	0	FP	矢内	5
(7)	16	PT	(1)	22

（審・大河原、池田）

◇11月13日（栃木・栃木市総合体育館）

日新製鋼 33（17－14、16－17）31 三陽商会

〔戦評〕開始早々、ポストのノーマークシュートを両GKが阻止し盛り上がった滑り出しとなった。両チームともポストに意識的にパスを通そうとしたが、三陽はラストパスがつながらず、日新と比べ失敗したパスの数がそのまま得点差に表われた。前半の中盤になると、そのこぼれ球が日新の速攻につながり、日新が3連続得点しペースをつかんだ。
　後半になると、両チームとも退場者が多くなった。しかし日新は少ない人数の場合にもよく走り、ルーズボールを2本続けてマイボールにし、逆に得点差を広げた。これが結局試合を決定づけた。三陽も残り5分から清家、実方のゴールなどで2点差まで追い上げたが及ばなかった。

〔三陽〕	得		〔日新〕	得
宇田川	0	GK	森田	0
吉田	0	GK	谷	0
関	2	FP	森	0
清家	8	FP	武田	6
田口	0	FP	西山	7
大塚	5	FP	高木	5
砂川	2	FP	甲斐	2
山口	2	FP	日野	2
浜田	8	FP	堀田	6
実方	4	FP	藤本	3
安藤	0	FP	野中	2
吉原	0	FP	木村	0
(5)	31	PT	(5)	33

（審・田村、斉藤）

◇11月19日（山口・下関市体育館）

湧永製薬 25（12－10、13－9）19 日新製鋼

〔戦評〕前半、日新のディフェンスがよく動き、湧永は攻めあぐんでなかなか得点することができなかった。逆に日新は武田、西山のロングを中心に得点し、日新がリードしていく展開になったが、湧永は20分にGKが交代してから攻守のリズムが良くなり、25分に初めてリードして2点差で前半を終了した。
　後半、湧永のリズムも良くなり、ポスト、サイド、ロングとバランスが良くなり、点差を広げていった。

〔日新〕	得		〔湧永〕	得
森田	0	GK	徐	0
谷	0	GK	井藤	0
森	1	FP	河原	5
武田	2	FP	玉村	8
西山	5	FP	堀田	3
高木	3	FP	中川	1
甲斐	4	FP	長沢	1
日野	0	FP	荷川取	4
堀田	2	FP	奥田	2
藤本	2	FP	楢原	1
野中	0	FP	鎌塚	0
木村	0	FP	藤本	0
(3)	19	PT	(7)	25

（審・中本、福田）

◇11月20日（福岡・北九州市立体育館）

大崎電気 33（14－7、19－10）17 三陽商会

〔戦評〕大崎は固いディフェンスからの速攻と大型選手のロングシュート、たてブロックと着実に点を重ねる。三陽商会は、相手チームの高いディフェンスに悩まされながらも、良いひきつけからのポスト攻撃やカットインにより得点するが、7点差で前半を終了する。
　後半も大崎は着実に得点し差を広げる。三陽もシュートを試みるが、高いディフェンスとキーパーの攻守に阻まれ、苦しい展開となった。

〔三陽〕	得		〔大崎〕	得
宇田川	0	GK	渡辺	0
吉田	0	GK	矢内	0
関	0	FP	松岡	7
清家	4	FP	大和田	0
田口	0	FP	武田	4
大塚	0	FP	首藤	6
砂川	1	FP	中田	1
浜田	6	FP	山本	7
実方	2	FP	越迫	0
河村	0	FP	菅田	1
吉原	0	FP	大野	1
山口	4	FP	宮下	6
(1)	17	PT	(5)	33

（審・山根、赤地）

◇11月23日（愛知・豊田市体育館）

本田技研鈴鹿 25（15－9、10－13）22 大同特殊鋼

〔戦評〕前半は田口の巧みなパスワークから藤井、内藤がロングを決めて本田がリードを奪う。逆に後半は気迫のディフェンス、高村のフェイントからの崩しで大同が

追い上げた。残り5分、中本の3連続カットインで大同が2点差まで追い上げたが、ペナルティースローを本田GK橋本が好守、大同の勢いを止めて逃げ切った。

得	〔大同〕		〔本田〕	得
0	上村	GK	大畑	0
0	秋吉	GK	橋本	0
0	田中	FP	真砂	2
5	高村	FP	藤井	7
2	朝生	FP	尾上	0
3	明石	FP	内藤	4
0	河井	FP	粟屋	4
2	横浜	FP	小池	0
1	佐藤	FP	田口	3
7	中本	FP	山本	2
1	名取	FP	山村	3
1	植木	FP	平子	0
22	(0)	PT	(2)	25

（審・日比 川合）

◇11月26日

（三重・四日市市体育館）

本田技研鈴鹿 24〔12−12, 12−9〕21 三陽商会

〔戦評〕ここまで4敗と勝ち星をあげることができない三陽は、立ち上がりより鋭い動きを見せ、一時2−0とリードしたが、本田は真砂を中心に多彩な攻めを見せ、12−9として前半を終了。後半に入り、両チームともシーソーゲームをくり返したが、三陽の逆転には至らなかった。

得	〔三陽〕		〔本田〕	得
0	宇田川	GK	大畑	0
0	吉田	GK	橋本	0
0	関	FP	真砂	5
3	清家	FP	藤井	4
0	田口	FP	尾上	0
2	大塚	FP	内藤	5
6	砂川	FP	粟屋	1
4	山口	FP	小池	0
4	浜田	FP	田口	0
2	実方	FP	山本	2
0	河村	FP	山村	7
0	吉原	FP	平子	0
21	(3)	PT	(2)	24

（審・岩本 板倉）

◇11月26日

（石川・金沢市総合体育館）

日新製鋼 21〔10−8, 11−8〕16 大同特殊鋼

〔戦評〕前半、両チーム慎重に攻め、一進一退。やや日新のペースで試合が進み、11−8で前半を終る。ハーフタイム時、落雷による停電でハーフタイムが延長された。水入りの後、機を見ては日新が速攻をかける。大同GK秋吉もよく踏んばったが、ジワジワ点差をあけられる。大同は攻撃ミスも多く、点につながらなかった。

得	〔大同〕		〔日新〕	得
0	上村	GK	森田	0
0	秋吉	GK	谷	0
0	田中	FP	森	0
1	高村	FP	武田	4
6	朝生	FP	西山	4
2	明石	FP	高木	3
0	河井	FP	甲斐	2
1	横浜	FP	日野	0
1	佐藤	FP	堀田	1
3	中本	FP	藤本	5
1	名取	FP	野中	1
1	植木	FP	木村	1
16	(1)	PT	(1)	21

（審・阿部羅 古橋）

◇11月27日

（富山・高岡市民体育館）

湧永製薬 28〔14−10, 14−9〕19 大崎電気

〔戦評〕前半、湧永は河原を中心にチャンスに確実にシュートを決め、着々と得点を重ねるが、大崎は再三のシュートチャンスを湧永GK井藤の好守に阻まれ、リードを許す。

後半、両チームともディフェンスが荒くなり、激しいシュートの打ち合いとなり、大崎は首藤のロングなどにより必死に点差を詰めようとするが、湧永は玉村、長沢などの活躍により逃げ切った。

〔前期順位〕

①湧永製薬（5勝）②大崎電気（3勝2敗）③日新製鋼（3勝2敗）④本田技研鈴鹿（3勝2敗）⑤大同特殊鋼（1勝4敗）⑥三陽商会（5敗）※②〜④位は、同勝点のチーム間の得失点差による。

得	〔大崎〕		〔湧永〕	得
0	渡辺	GK	徐	0
0	矢内	GK	井藤	0
3	松岡	FP	河原	8
6	大和田	FP	玉村	6
1	武田	FP	堀田	2
11	首藤	FP	中川	0
3	中田	FP	長沢	3
10	山本	FP	荷川取	1
0	越迫	FP	奥田	4
0	菅田	FP	楢原	4
0	山内	FP	鎌塚	0
7	宮下	FP	藤本	0
19	(2)	PT	(1)	28

（審・古橋 阿部羅）

女子

◇10月23日

（香川・香川町総合体育館）

大崎電気 29〔17−8, 12−6〕14 シャトレーゼ

〔戦評〕前半から大崎・金のスタンディングシュートや尹のミドルシュートがよく決まり、前半を12−6とリードした。後半に入っても着々と加点、一方シャトレーゼもよく応戦したが、ミドルシュートがディフェンスの手に当たり、思うように攻められなかった。

得	〔シャト〕		〔大崎〕	得
0	丸山	GK	佐々木	0
0	千葉	GK	宗方	0
0	嶋崎	FP	森田	0
3	海道	FP	松尾	1
1	松沢	FP	須永	0
2	黒沼	FP	前川	3
0	小林	FP	梅原	2
1	小野寺	FP	江口	2
5	生方	FP	野田	1
1	山岸	FP	鈴木	1
0	高原	FP	金玉花	9
1	小俣	FP	尹秉順	10
14	(2)	PT	(0)	29

（審・竹村 野中）

◇11月30日

（大分・大分県営総合体育館）

立石電機山鹿 25〔14−13, 11−6〕19 大和銀行

〔戦評〕前半、好調な滑り出しを見せた立石は、ディフェンスも良く、11−6と5点をリードする。後半は一進一退のシーソーゲームであったが、立石が野嶋の活躍、追い上げられた時の中山のパスカット、速攻でペースをつかみ、大和をふり切った。

得	〔大和〕		〔立石〕	得
0	増見	GK	岡本	0
0	坂口	GK	川島	0
6	丸田	FP	山口	0
2	赤瀬	FP	山内	0
3	上村	FP	江口	1
2	小池	FP	田中	1
0	藤本	FP	横田	0
1	渡辺	FP	野嶋	9
5	袰川	FP	橋本	3
0	木瀬	FP	武津	3
0	松田	FP	中山	4
0	平井	FP	比嘉	4
19	(1)	PT	(1)	25

（審・森山 高橋）

◇10月30日（神奈川・秋葉台文化体育館）

日本ビクター 16（8―6, 8―5）11 日立栃木

〔戦評〕前半立ち上がりは日立がリードしたが、15分過ぎから無得点に終り、逆にビクターが2点をリードして前半を終了。
　後半もビクターのペースで進み、GKの好守などで日立の得点を5点に押さえて勝った。

〔日立〕	得		〔日ビ〕	得
岡本	0	GK	小口	0
梅津	0	GK	高橋	0
菅原	0	FP	武藤	3
神永	0	（審・浜田 小笠原）	長田	7
柳田	0		枝川	1
山岸	0		下條	1
尾苗	3		平松	0
中村	1		根本	1
岡田	0		太田	3
新井	3		永岡	0
吉鶴	3		中村	0
飯塚	1		山之内	0
	(0)	PT		(2)
	11			16

◇11月3日（岩手・紫波町立体育館）

大崎電気 44（24―13, 20―14）27 立石電機山鹿

〔戦評〕金玉花からのパスで、尹のロング、ポスト松尾、また自らのシュートで前半24点をあげた大崎が大きくリード。
　後半に入っても、大崎の得点ラッシュは止まらず、44得点をあげ、両チーム得点71点と新記録が続出した。
　立石も野嶋、武津らが得点をあげるが、大崎のゴールラッシュには及ばなかった。

〔立石〕	得		〔大崎〕	得
岡本	0	GK	佐々木	0
川島	0	GK	宗片	0
山口	1	FP	森田	1
山内	4	（審・小友 谷藤）	松尾	5
江口	2		須永	0
田中	0		前川	3
横田	0		梅原	5
野嶋	8		江口	3
橋本	1		野田	0
武津	7		鈴木	0
中山	4		金玉花	19
比嘉	0		尹秉順	8
	(2)	PT		(2)
	27			44

◇11月5日（山口・徳山市体育館）

日本ビクター 25（12―9, 13―9）18 大和銀行

〔戦評〕前半の滑り出し、大和の小池、袰川が得点を重ね、2―0と順調なスタートを切ったかに見えたが、ビクターも5分には同点にする。その後、25分まで1点を争う白熱したゲーム展開であったが、残り5分、ビクターのキーパーの守りに阻まれ、大和は得点できず、前半を12―9で終る。後半は大和が先に得点し、2点差に詰め寄るが、ビクターも速攻、サイド攻撃で得点を重ね、得点差を広げて25―18で勝利をものにした。

〔大和〕	得		〔日ビ〕	得
増見	0	GK	小口	0
坂口	0	GK	高橋	0
丸田	3	FP	武藤	8
赤瀬	1	（審・山根 赤地）	長田	8
上村	3		枝川	3
小池	3		下條	1
藤本	2		平松	0
渡辺	1		根本	3
袰川	5		太田	1
木瀬	0		工藤	1
松田	0		永岡	0
高尾	0		山之内	0
	(1)	PT		(2)
	18			25

◇11月6日（鳥取・境港市民体育館）

日立栃木 20（11―9, 9―11）20 シャトレーゼ

〔戦評〕前半は日立が速い動きからサイドシュート、カットインシュートを決め、出足5―0と優位に試合を進める。シャトレーゼも海道のロングシュートが決まりだし、11―9で折り返す。後半も一進一退の攻防が続くが残り6分のところで日立・山岸が退場となり、遂にシャトレーゼが追いつき、結局20―20で引き分けた。

〔シャト〕	得		〔日立〕	得
丸山	0	GK	岡本	0
工藤	0	GK	梅津	0
嶋崎	2	FP	菅原	0
海道	5	（審・島崎 井上）	神永	1
松沢	2		山岸	6
黒沼	1		尾苗	6
小林	1		中村	0
小野寺	1		岡田	4
江原	1		石毛	0
生方	7		新井	2
高原	0		吉鶴	1
井出	0		飯塚	0
	(0)	PT		(0)
	20			20

◇11月12日（広島・広島県立体育館）

日本ビクター 31（15―8, 16―16）24 シャトレーゼ

〔戦評〕シャトレーゼはエース海道を中心に攻めるが、精彩を欠き、再三のペナルティースローもビクターのGK小口の好守に阻まれ、チャンスをつぶした。
　後半は、シャトレーゼも元気を取りもどし、よく動いて互角に戦ったが、地力に勝るビクターは、スピードに乗った自在の攻撃でシャトレーゼをふり切った。

〔シャト〕	得		〔日ビ〕	得
丸山	0	GK	小口	0
工藤	0	GK	高橋	0
嶋崎	1	FP	武藤	5
海道	11	（審・中本 渡辺）	長田	10
松沢	2		枝川	6
黒沼	1		下條	3
小松	1		平松	1
小野寺	1		根本	4
生方	2		太田	1
山岸	3		工藤	0
高原	0		永岡	1
宇宿	2		山之内	0
	(4)	PT		(1)
	24			31

◇11月13日（宮城・県スポーツセンター）

大崎電気 37（16―12, 21―16）28 大和銀行

〔戦評〕大和はパスを多用し、大崎がディフェンスを崩しにいくが、ディフェンスの壁は厚く容易ではなかった。
　反面、大崎は金、尹の力強いプレーで得点を重ねていく。これに対し大和は、マンツーマン・ディフェンスから速攻で追いすがったが、追撃及ばず終了した。

〔大和〕	得		〔大崎〕	得
増見	0	GK	佐々木	0
坂口	0	GK	宗方	0
丸田	10	FP	森田	0
赤瀬	3	（審・中島 高野）	松尾	9
上村	2		須永	0
小池	4		前川	2
藤本	1		梅原	1
渡辺	6		江口	5
袰川	2		野田	0
木瀬	0		鈴木	1
松田	0		金玉花	12
高尾	0		尹秉順	7
	(3)	PT		(5)
	28			37

◇11月13日（栃木・栃木市総合体育館）

立石電機山鹿 21（9—7、12—11）18 日立栃木

〔戦評〕日立がPTで先制、先手をとられた立石も反撃するが、日立のGKの好守で得点できなかったが、中盤、山内、江口の活躍で19分に同点に追いつき、ディフェンスも立ち直り日立のシュートをカットし、それを速攻で決め、さらには比嘉のスカイプレーで加点し、前半を終えた。

後半、立石の速い攻撃に日立が退場者を出し、その間に立石は速攻、スカイで4連続得点、その後も着実に加点し13分には16—8まで差を広げた。日立も尾苗の活躍で追い上げたが、21—18で立石の勝利となった。

	〔日立〕	得	〔立石〕	得
GK	岡本	0	岡本	0
GK	海津	0	川島	0
FP	菅原	1	山口	0
FP	神永	1	山内	1
FP	柳田	0	江口	1
FP	山岸	1	田中	0
FP	尾苗	11	横田	0
FP	中村	1	野嶋	5
FP	岡田	1	橋本	0
FP	石毛	0	武津	2
FP	新井	1	中山	5
FP	吉鶴	1	比嘉	7
計		18		21
PT		(3)		(0)

（審・上久保・北井）

◇11月19日（山口・下関市体育館）

大崎電気 38（20—14、18—12）26 日立栃木

〔戦評〕前半から大崎は金、日立は山岸を中心に点の取り合いとなるが、速攻、ポストプレーと攻撃が多彩な大崎がリードして折り返す。後半に入り、大崎は梅原、尹を中心に高く、厚いディフェンスからの速攻を決め差を広げた。

	〔日立〕	得	〔大崎〕	得
GK	岡本	0	佐々木	0
GK	梅津	0	宗片	0
FP	菅原	0	森田	0
FP	神永	0	松尾	4
FP	山岸	9	須永	0
FP	尾苗	7	前川	6
FP	中村	0	梅原	3
FP	岡田	6	江口	3
FP	石毛	1	野田	0
FP	新井	0	鈴木	0
FP	吉鶴	2	金玉花	15
FP	飯塚	1	尹秉順	7
計		26		38
PT		(1)		(4)

（審・中村・中所）

◇11月20日（福岡・北九州市立総合体育館）

立石電機山鹿 23（8—10、15—5）15 日本ビクター

〔戦評〕前半、ビクターは大型選手の厚いディフェンスからの速い攻撃を生かし、点を重ねる。一方、立石はフェイント、カットインなどで得点し、前半は2点のリードでビクターが折り返す。後半、立石はディフェンスがよくまとまり、7分に逆転、その後も速攻、サイドにより順調に得点を重ねた。

	〔日ビ〕	得	〔立石〕	得
GK	小口	0	岡本	0
GK	高橋	0	川島	0
FP	武藤	6	山口	1
FP	長田	1	山内	1
FP	枝川	0	江口	1
FP	下條	1	田中	2
FP	平松	0	横田	0
FP	根本	2	野嶋	3
FP	太田	1	橋本	3
FP	工藤	2	武津	4
FP	永岡	1	中山	5
FP	山之内	0	比嘉	3
計		14		23
PT		(1)		(0)

（審・高橋・森山）

◇11月23日（愛知・豊田市体育館）

シャトレーゼ 22（11—7、11—8）15 大和銀行

〔戦評〕勝負のポイントは前半残り5分にあった。海道を厚く守ってリードを続けていた大和だが、退場者の出た間隙をついて海道が4連続得点してシャトレーゼが抜け出した。大和は丸田を完全に止められ、最後まで波に乗れなかった。

	〔大和〕	得	〔シャト〕	得
GK	増見	0	工藤	0
GK	丸田	0	千葉	0
FP	鈴木	0	嶋崎	3
FP	赤瀬	2	海道	10
FP	上村	2	松沢	1
FP	小池	2	小林	0
FP	藤本	4	小野寺	1
FP	渡辺	2	江原	0
FP	褜川	3	生方	1
FP	木瀬	0	山岸	3
FP	松田	0	小俣	1
FP			宇宿	2
計		15		22
PT		(2)		(4)

（審・川島・森）

◇11月26日（三重・四日市市体育館）

大崎電気 29（16—11、13—10）21 日本ビクター

〔戦評〕大崎は立ち上がり5分に3—1とリードしたが、ビクターは相手のミスに乗じて速攻を決め15分に6—4と逆転に成功。しかし、大崎は18分に金のシュートでリードを奪い、その後は多彩な攻撃で着々と加点、前半を16—11とした。後半に入ってもその差は縮まらず、大崎は金、尹を軸に余裕のあるゲーム運びで勝利を収めた。

	〔日ビ〕	得	〔大崎〕	得
GK	小口	0	佐々木	0
GK	高橋	0	宗片	0
FP	武藤	10	森田	0
FP	枝川	0	松尾	1
FP	松井	0	須永	0
FP	年松	1	前川	2
FP	根本	3	梅原	5
FP	太田	2	江口	3
FP	工藤	0	野田	0
FP	永岡	4	鈴木	0
FP	中村	1	金	11
FP	山之内	0	尹	7
計		21		29
PT		(4)		(4)

（審・細井・岩永）

◇11月26日（石川・金沢市総合体育館）

シャトレーゼ 20（10—9、10—9）18 立石電機山鹿

〔戦評〕立ち上がりは、シャトレーゼが海道のロング、松沢のサイドとテンポよく得点を重ね先行したが、立石も野嶋の思い切りのよいロングで1点差としたところで前半が終了した。後半に入っても、シャトレーゼは立石は守りの乱れもあって着実に得点を重ねた。立石も武津のロングなどで追い上げたが、野嶋の負傷退場という不運も重なり、逆転はならなかった。

	〔立石〕	得	〔シャト〕	得
GK	岡本	0	丸山	0
GK	山口	0	嶋崎	1
FP	山内	0	海道	9
FP	江田	4	松沢	5
FP	田中	0	黒沼	1
FP	横田	0	小林	1
FP	野嶋	9	小野寺	0
FP	橋本	1	江原	0
FP	武津	3	生方	1
FP	中山	0	山岸	2
FP	比嘉	1	宇宿	0
FP	川島	0	工藤	0
計		18		20
PT		(3)		(3)

（審・加藤・八日市屋）

◇11月28日（富山・高岡市民体育館）

大和銀行 22（14—10、8—8）18 日立栃木

〔戦評〕大和は丸田を中心に快調なスタートを切るが、日立も丸田にマンツーにつき必死に食い下がる。しかし、それをかいくぐり、ステップ、ジャンプシュートがよく決まり、前半を4点差で終る。

後半に入り、日立は山岸を中心によく盛り返すが、大和・増見のキーピングにより思うように得点できず、前半の4点差が縮まらず試合終了となる。

	〔日立〕	得	〔大和〕	得
GK	岡本	0	増見	0
GK	梅津	0	坂口	0
FP	菅原	0	丸田	7
FP	神永	0	鈴木	2
FP	山岸	4	赤瀬	0
FP	尾苗	4	上村	1
FP	中村	0	小池	6
FP	岡田	1	藤本	2
FP	石毛	0	渡辺	2
FP	新井	5	褜川	2
FP	吉鶴	4	木瀬	0
FP	飯塚	0	松田	0
計		18		22
PT		(0)		(1)

（審・竹野・越田）

〔前期順位〕

①大崎電気（5勝）②立石電機山鹿（3勝2敗）③日本ビクター（3勝2敗）④シャトレーゼ（2勝1分2敗）⑤大和銀行（1勝4敗）⑥日立栃木（1分4敗）※②〜③位は、当該チームの対戦成績による。

昭和63年度A級審査合格者

小林　敏（宮　城）	池田加一（宮　城）	本田義昭（神奈川）	松本　宏（神奈川）	石川泰宏（神奈川）
遠藤正伸（新　潟）	高田和英（石　川）	渡辺貞彦（愛　知）	楓　健児（愛　知）	溝口博一（愛　知）
稲石典久（愛　知）	木村真司（和歌山）	田中邦彦（京　都）	福井孝明（大　阪）	松原誠起（愛　媛）
武智誠治（愛　媛）	佐藤利広（香　川）	切通孝幸（熊　本）		

昭和63年度B級審査合格者

守屋　賢（宮　城）	高橋善浩（山　形）	鎌田　聰（山　形）	我孫子功（山　形）	佐藤　靖（山　形）
大　憲一（山　形）	我孫子平（山　形）	青木　薫（山　形）	大沢由和（岩　手）	佐藤睦朗（岩　手）
佐々木義和（秋　田）	佐藤文男（秋　田）	今井典幸（群　馬）	桜井　勝（群　馬）	細木建夫（東　京）
佐々木正徳（東　京）	吉野　茂（東　京）	江成元伸（東　京）	金城和貞（東　京）	吉田　治（埼　玉）
井川　修（埼　玉）	平野延行（埼　玉）	土屋雅男（埼　玉）	青柳　明（埼　玉）	阿部健二（埼　玉）
石井雄一（埼　玉）	太利幸男（埼　玉）	田中英俊（埼　玉）	飯野弘司（埼　玉）	池田　勝（埼　玉）
水谷泰男（埼　玉）	中野利一（埼　玉）	伊藤治也（埼　玉）	山口剛之（埼　玉）	山田克彦（埼　玉）
雨谷秀樹（茨　城）	福田　弘（茨　城）	堀井信也（神奈川）	細井義彦（神奈川）	松川純史（神奈川）
我孫子清規（神奈川）	斎田英二（神奈川）	小口政則（長　野）	成田　守（新　潟）	藤崎　孝（新　潟）
中村明裕（石　川）	浜野大助（石　川）	浅野幹也（愛　知）	桐下忠明（静　岡）	畑中　忍（静　岡）
神谷　斎（三　重）	坂本和寛（三　重）	源野幸次（大　阪）	咲本　薫（京　都）	中森雅彦（京　都）
岸本光夫（京　都）	酒井　護（京　都）	太田泰史（京　都）	坂井良至（愛　媛）	杉山孝広（香　川）
真嶋洋二（香　川）	多田宣行（香　川）	清水　修（高　知）	谷脇　敦（高　知）	成岡　浩（高　知）
大原雄二（高　知）	山本和弘（高　知）	武藤保宣（福　岡）	四宮重明（福　岡）	谷　新治（福　岡）
吉村　浩（福　岡）	新荘悌男（福　岡）	葦原大三（熊　本）	北島潤一（熊　本）	山川　潔（熊　本）
馬場口和久（鹿児島）	久保田玄（広　島）	中尾芳樹（広　島）	長谷　実（広　島）	高　俊文（広　島）
吉本明人（山　口）	大塚尚子（岡　山）			

未来をみつめる健康テクノ

asics

アシックス

がんばれ!ニッポン!



JOC 1985

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

走る、跳ぶ、投げる。
制空権を得るためのスカイハンド®

より高い跳躍とより長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。アシックスより送ります。

SKYHAND®

ASICS Handball Wear

asics® TIGER®

ASICS Handball Shoes

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表)
■Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二八一号
昭和四十年六月十
第三種郵便物認可
昭和六十三年十一月二十五日 印刷
昭和六十三年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 二二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)